

民

法

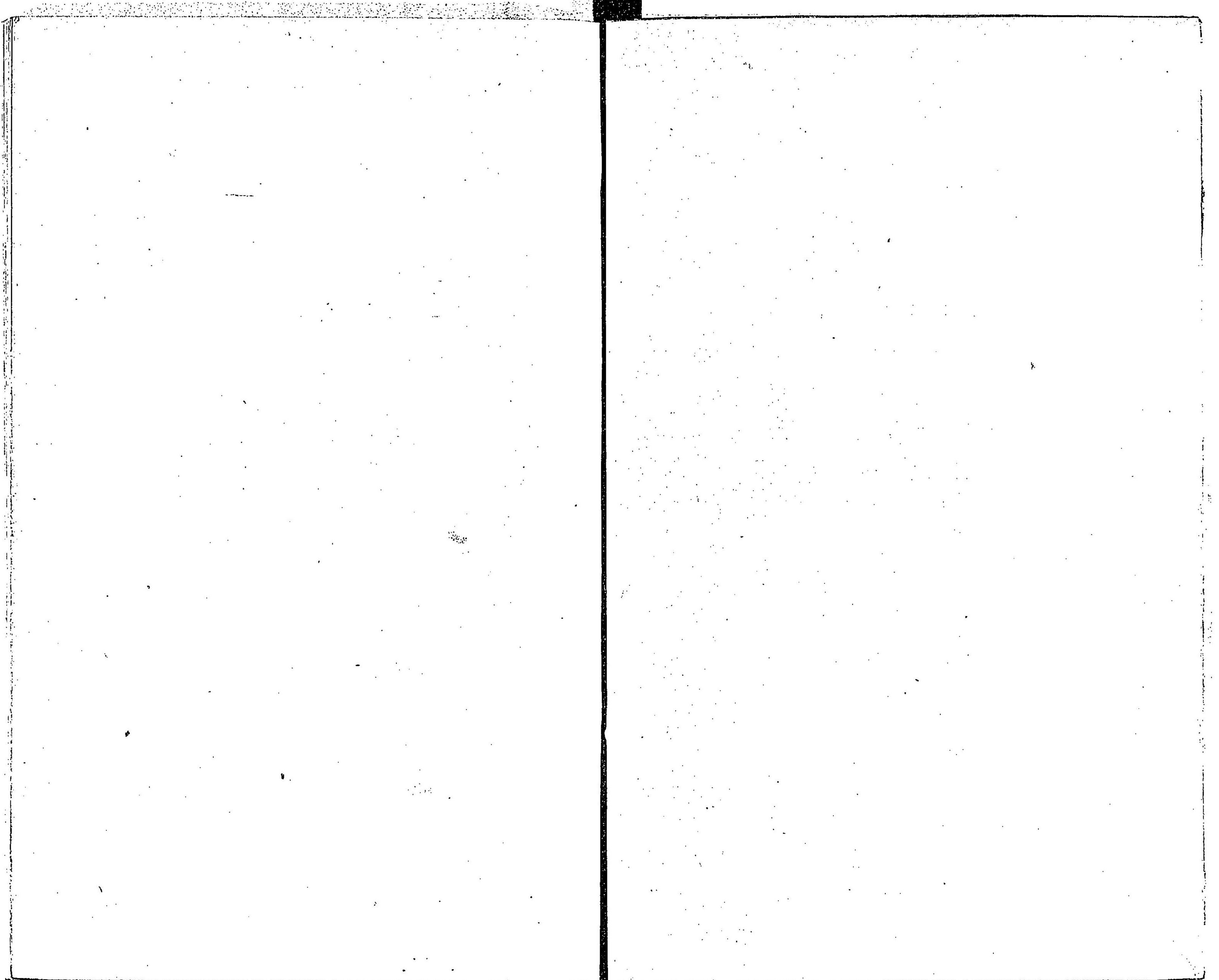
草

案

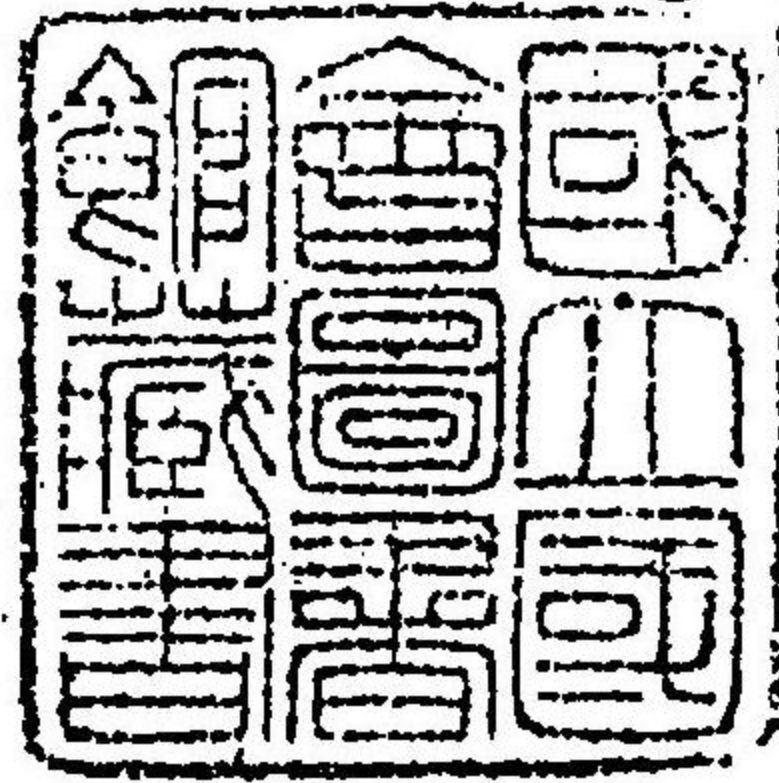


特71

589



特
509



324.02

此ニ上スル民法草案第三編中第一卷第二卷ヲ闕キ其
間通計三百六條ヲ掲列セサルモノハ其第一卷第二卷
ハ財産相續及ヒ贈遺ノ法則ニ係リ其現下竣稿ニ屬ス
ル各條ノ更ニ刪改訂正ス可キモノ多キニ因ル閣下請
フ其意ヲ允スルヲ明治十一年一月

民法編纂委員

司法權大書記官牟田口通照

民法編纂委員

司法大書記官箕作麟祥

52. 4. 15
77W13856

大木司法卿
閣下



民法草案目録
第三編 財産所有權ヲ得ル方法
總則 從第六百二十六條至第六百三十二條 明
治十年一月三十一日起草二月一日起草 明
第三卷 契約 從第九百三十九條至第一千百六
十二條 同年八月九日起草十
月五日
竣草
第四卷 契約ナクシテ生スル義務 從第一千百
六十三條
至第一千七百七十九條 同年十月
八日起草同月十三日竣草

民法草案目録

第三編 財産所有權ヲ得ル方法

總則 從第六百二十六條至第六百三十二條 明
治十年一月三十一日起草二月一日起草 明

第三卷 契約 從第九百三十九條至第一千百六
十二條 同年八月九日起草十

月五日
竣草

第四卷 契約ナクシテ生スル義務 從第一千百
六十三條

至第一千七百七十九條 同年十月
八日起草同月十三日竣草

民法草案

第三篇 財產所有權ヲ得ル方法

總則

第六百二十六條 財產所有權ハ左ノ方法ニ因リ之ヲ得可シ

第一 財產相續

第二 生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺

第三 契約

第四 法律ノ効

第五 主ニ因テ從ヲ併スノ權

第六 期滿所得

第七 先占ノ權

第六百二十七條 所有者ナキ財産ハ國ニ屬ス可シ

第六百二十八條 何人ノ所有ニモ屬セス衆人ノ共通

シテ用フ可キ物アリ但シ此類ノ物ヲ用フルノ方法

ハ別段取締ノ法則ヲ以テ之ヲ定ム

第六百二十九條 漁獵ヲ爲スノ權モ亦別段ノ法則ヲ

以テ之ヲ定ム

第六百三十條 自己ノ地内ニ於テ埋藏物ヲ掘出シタ

ル時ハ之ヲ其掘出シタル者ノ所得トス可シ若シ他

人ノ地内ニ於テ之ヲ掘出シタル時ハ其掘出シタル
者其一半ヲ所得トシ其地ノ所有者其一半ヲ所得ト
ス可シ但シ其埋藏物ノ所有者ノ知レタル者及ヒ盜
賊ニ係ルモノハ此限ニ非ス

第六百三十一條 性質及ヒ種類ノ如何ナルヲ問ハス

海中ニ投ケ入レシ品物及ヒ海水ノ打上ケシ品物又

ハ海岸ニ生スル草類ヲ所得トスルノ權ハ別段ノ法

則ヲ以テ之ヲ定ム

第六百三十二條 遺失物ヲ得タル者之ヲ所得ト爲ス

ノ權ハ別段ノ法則ヲ以テ之ヲ定ム

第三卷 契約

第一章 前加法則

第九百三十九條 契約トハ或物ノ所有ヲ移シ又ハ或事ヲ爲シ又ハ或事ヲ爲サ、ルノ義務ヲ生セシムル所ノ約束ヲ云フ

第九百四十條 契約ヲ爲シタル者ノ爲メ互ニ義務ヲ生セシムル時ハ其契約ヲ名ケテ双務ノ契約ト云フ

第九百四十一條 契約ヲ爲ス此ノ人ヨリ彼ノ人ニ對シテ義務ヲ生セシムルコトナキ時ハ其契約ヲ名ケテ隻務ノ

契約ト云フ

第九百四十二條 契約ヲ爲ス此ノ人ノ爲メニ利益ヲ得セシムルトナク彼ノ人ノミニ利益ヲ得セシムル契約ヲ名ケテ恩惠ノ契約ト云フ

第九百四十三條 契約ヲ爲ス此ノ人ト彼ノ人トノ双方ノ爲メ互ニ利益ヲ得セシムル契約ヲ名ケテ有償ノ契約ト云フ

第九百四十四條 有償ノ契約中ニテ此ノ人ト彼ノ人トノ間ニ互ニ得セシムル利益ヲ豫定セシ契約ヲ互易ノ契約ト云フ

有償ノ契約中ニテ此ノ人ト彼ノ人トノ間ニ互ニ得セシムル利益ヲ豫定セス未定ノ事ニ關シテ双方ノ爲メ利得又ハ損失ヲ生ス可キ契約ヲ名ケテ偶生ノ事ニ關スル契約ト云フ

第九百四十五條 凡ソ契約ハ法律上其名ヲ定マリタル者ト其名ノ定マラサル者トヲ問ハス此卷ニ記スル總則ニ循フ可シ但シ法律上其名ノ定マリシ契約ノミニ關スル法則ハ各其契約ノ卷ニ之ヲ記シ商業上ノ契約ニ關スル法則ハ商法ニ之ヲ記ス

第二章 契約ヲ適法ノモノト爲スニ必要ノ條

第九百四十六條 契約ヲ適法ノモノト爲スニハ左ノ四件ヲ必要トス

第一 義務ヲ行フ可キ者ノ承諾アル事

第二 契約ヲ爲シ得可キ能力アル事

第三 契約ノ目的タル事物ノ定マリシ事

第四 法ニ適シタル理由アル事

第一節 義務ヲ行フ可キ者ノ承諾アル事

第九百四十七條 錯誤ヲ以テ承諾ヲ爲シ又ハ強迫ニ因リ已ムヲ得ス承諾ヲ爲シ又ハ詐欺ヲ受ケテ承諾

ヲ爲シタル時ハ適法ノ承諾ナリトセス

第九百四十八條 契約ノ目的タル事物ノ本質ヲ錯誤シタル時ハ其錯誤ヲ以テ契約ヲ取消スノ理由ト爲ス
一ヲ得可シ又契約ヲ結ハントスル人ヲ錯誤シテ其主要其人ニ在ル時ハ其錯誤ヲ以テ契約ヲ取消スノ理由ト爲ス
一ヲ得可シ

第九百四十九條 義務ヲ行フ可キ一ヲ契約シタル者人ヨリ強迫ヲ受ケ已ムヲ得スレテ之ヲ承諾シタル時ハ其契約ヲ取消スノ理由ト爲ス一ヲ得可シ但シ其強迫ヲ爲シタル者其契約ニ因リ利益ヲ得ントス

ル者ト別人タル時ト雖モ亦同一ナリトス

第九百五十條 精神靜定セシ者ノ心ヲ動カシ其者ヲシテ其身体又ハ財産ニ許多ノ禍害ヲ受ク可キ畏懼ノ念ヲ生セシメシ時ハ強迫ナリトス但シ此事ニ付テハ其強迫ヲ受ケタル者ノ年齢、男女、景狀ニ注意ス可シ

第九百五十一條 契約ヲ結フ者ニ對シ強迫ヲ加ヘタルニ非スト雖モ其配偶者又ハ其尊屬親及ヒ卑屬親等ニ對シ強迫ヲ加ヘタル時ハ亦其契約ヲ取消スノ原由ト爲スコヲ得可シ

第九百五十二條 契約ヲ爲ス者ノ中一方詐欺ヲ爲シタルニ非サレハ他ノ一方初メヨリ其契約ヲ結フコトナカルクキ事由ノ明白ナル時ハ其詐欺ヲ以テ契約ヲ取消スノ原由ト爲スコヲ得可シ

第九百五十三條 錯誤詐欺ニ因リ契約ヲ結ビタル者其錯誤及ヒ詐欺ヲ知リタル後ニ之ヲ明認又ハ黙認シタル時又ハ強迫ニ因リ契約ヲ結ビタル者其強迫ノ止ミタル後ニ之ヲ明認又ハ黙認シタル時ハ其錯誤、詐欺、強迫ヲ以テ原由ト爲シ其契約ヲ取消スコヲ得

第九百五十四條 錯誤、詐欺、強迫ニ因リ結ヒタル契約

ハ此卷ノ第五章第七節ニ記スル所ノ法則ニ循ヒ之

ヲ取消サント訟フルヲ得可シ

第九百五十五條 契約ヲ爲シタル者ハ其契約ノ爲メ

損害ヲ受ケタルヲ以テ原由ト爲シ其契約ヲ取消ス

トヲ得ス但シ法律上ニ特ニ定メタル或種ノ契約ハ

此限ニ非ス

第九百五十六條 何人ヲ間ハス總テ自己ノ名義ヲ以

テ他人ニ契約上ノ權利ヲ得セシメ又ハ義務ヲ負ハ

シムルヲ得ス

然レモ甲者ハ乙者ニ對シ丙者ノ所爲ヲ約シテ丙者

ノ擔保人トナルヲ得可シ但シ丙者ノ其所爲ヲ行

ハサル時ハ乙者其擔保人タル甲者ニ對シテ償ヲ求

ムルヲ得可シ

第九百五十七條 甲者ノ乙者ト約定スル所ニ因リ丙

者ノ爲メ利益ヲ生セシム可キ契約ハ之ヲ爲スヲ

得可シ但シ丙者其契約ニ因リ已レシ利益ヲ得ント

欲スル旨ヲ申述スル時ハ甲者其契約ヲ廢棄スルコ

ヲ得ス

第九百五十八條 契約ヲ爲シタル者ハ自己ノ爲メト

其財産相續人及ヒ代權人ノ爲メトニ其契約ヲ爲シタルモノト看做ス可シ但シ契約書ノ文中ニ之ニ反シタル事ヲ記シタル時又ハ其契約ノ性質ニ因リ之ニ反シタル事ヲ知ル可キ時ハ此限ニ非ス

第二節 契約ヲ爲シ得キ能力アル事

第九百五十九條 法律上ニ特ニ無能力者ナリト定メ

タル者ノ外ハ何人ニ限ラス契約ヲ爲スコトヲ得可シ

第九百六十條 契約ヲ爲スコトヲ得サル無能力者ハ左

ノ如シ

一 幼者

遺言ノ禁ヲ受ケシ者

二 結婚シタル婦

三 其他總テ法律上ニテ或ル契約ヲ爲ス可カラサ

ルノ禁ヲ受ケタル者

第九百六十一條 幼者、治産ノ禁ヲ受ケシ者、結婚シタ

ル婦ハ自己ノ無能力ヲ理由ト爲シテ契約ヲ取消サ

ント訴求スルコトヲ得可シ

第九百六十二條 契約ヲ爲ス可キ能力アル者ハ己レ

ト契約ヲ爲シタル幼者、治産ノ禁ヲ受ケシ者、結婚シ

タル婦ノ無能力者タル旨ヲ申述シテ其既ニ爲シタ

ル契約ヲ取消スコトヲ得ス

第三節 契約ノ目的タル事物ノ定マリシ事

第九百六十三條 契約ハ此ノ人ヨリ彼ノ人ニ所有ヲ

移ス可キノ義務ヲ負フタル物件又ハ此ノ人ヨリ彼

ノ人ニ對シ爲ス可キノ義務ヲ負フタル事柄又ハ此

ノ人ヨリ彼ノ人ニ對シ爲サ、ル可キノ義務ヲ負フ

タル事柄ヲ以テ其目的トス

第九百六十四條 物件ノ借用又ハ物件ノ保有ヲ以テ

亦契約ノ目的ト爲スコトヲ得可シ

第九百六十五條 賣買ヲ爲シ得可キ物ニ非サレハ契

約ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第九百六十六條 契約ノ目的ト爲ス物件ハ其種類ノ

定マリタルコトヲ必要トス

契約ノ目的ト爲ス物件ノ分量ヲ後ニ定ムルコトヲ得

可キ時ハ必スシモ初メヨリ其分量ヲ定ムルニ及ハ

ス

第九百六十七條 將來ノ事物ハ亦之ヲ契約ノ目的ト

爲スコトヲ得可シ

然レモ未タ相續ヲ始メサル財産ハ縱令其財産所有

者ノ承諾アリト雖モ相續ヲ爲ス可キ者豫メ之ヲ抛

棄シ又ハ其財産ニ付キ豫メ他人ト契約ヲ爲ス可カ
ラス

第四節 法ニ適シタル原由アル事

第九百六十八條 謬虚ノ原由又ハ不適法ノ原由アル
契約ハ其効ナカル可シ

第九百六十九條 別段法律上ニ禁シタル契約ノ原由
及ヒ人民ノ風儀又ハ國ノ安寧ヲ害ス可キ契約ノ原
由ハ之ヲ不適法ノモノト爲ス可シ

第九百七十條 契約ノ原由ヲ特ニ契約書ニ記セスト
雖モ其契約ノ効アリトス

第三章 契約ノ効

第一節 總則

第九百七十一條 契約ハ之ヲ爲セシ雙方ノ者ノ爲メ
法律ニ等シキ力アリトス

契約ハ之ヲ爲シタル双方ノ者ノ承諾又ハ法律上ニ
允許シタル原由アルニ非サレハ之ヲ廢棄スルヲヲ
得ス

契約ハ之ヲ正實ニ執行フ可シ

第九百七十二條 契約ヲ爲シタル者ハ其契約書中ニ
記セシ條件ヲ執行フ可キノ義務アルノミナラス公

理常慣、法律ニ循ヒ自然其契約ヨリ生ヌ可キ條件ヲ
モ亦執行フ可キノ義務アリトス

第二節 物件ノ所有ヲ移ス可キノ義務

第九百七十三條 物件ノ所有ヲ移ス可キノ義務アル
時ハ其物件ヲ引渡シ且其引渡シ迄之ヲ保全ス可キ
ノ義務アリトス但シ其義務者ノ其義務ヲ行ハサル
時ハ權利者ニ對シ其損失ノ償ヲ爲スノ責ニ任ヌ可
シ

第九百七十四條 契約ヲ爲セシ者ノ中一方ノミノ利
益ヲ目的ト爲スト双方ノ利益ヲ目的ト爲ストヲ間

ハス一方ヨリ一方ニ引渡ス可キ物件ヲ保全ス可キ
ノ義務アル時ハ其義務者其物件ヲ保全スルニ極メ
テ懇切ニ注意ス可シ

其義務ハ契約ノ種類ニ因リ輕重ノ差異アリ但シ其
義務ノ効ハ各種ノ契約ノ卷ニ之ヲ記ス

第九百七十五條 物件ヲ引渡ス可キノ義務ハ契約ヲ
爲シタル双方ノ承諾ノミヲ以テ生シタルモノトス
一方ノ者ニ其義務アル時ハ其權利者其物件ノ所有
者トナリ其義務者尙ホ未タ其物件ヲ引渡サスト雖
モ其引渡ス可キ義務ノ生シタル後ニ其物件ノ損壞

滅盡シタル時ハ其權利者ノ損失ナリトス然レモ其義務者其物件ヲ引渡スルヲ怠リテ其物件ノ損壞滅盡シタル時ハ其義務者ノ損失ナリトス

第九百七十六條 物件ヲ引渡ス可キノ義務アル者之ヲ引渡ス可キノ催促書ヲ受ケ又ハ其催促書ニ等シキ書面ヲ受ケ尙ホ之ヲ引渡サ、ル歟又ハ其契約ニ權利者別段其物ヲ引渡ス可キノ催促書ヲ送ラスト雖モ唯其引渡ス可キ期限ニ至リシノミニ因リ之ヲ引渡サ、ル義務者ニ怠リノ責アル可キヲ預定シ其期限ニ至リ尙ホ之ヲ引渡サ、ル時ハ其義務者ニ

怠リノ責アリトス

第九百七十七條 此ノ人ト彼ノ人トノ間ニ不動産ノ所有ヲ移ス可キ契約ヲ爲シタル時ハ其所有ヲ得タル者ハ何人ニ對スルモ其不動産ノ所有者タル可シ然レモ其不動産ノ所有ヲ移シタル者ヨリ別ニ其不動産ニ付キ對物權ヲ得タル第三ノ人アル時其第三ノ人ニ對シ其不動産ノ所有ヲ得タル完全ノ効ヲ生セシムルニハ其不動産ノ所有ヲ得タル者ノ登記式ヲ行フヲ必要トス
又不動産ニ關スル爾餘ノ對物權ヲ移ス可キ契約ヲ

爲シタル場合ニ於テモ前項ノ法則ヲ適用ス可シ

第九百七十八條 引續テ二人ニ動産ノ所有ヲ移シ又ハ引渡ス可キノ義務アル時其二人中ノ一人現ニ其動産ノ保有ヲ得タルニ於テハ其動産ヲ得可キノ權他ノ一人ノ權ヨリ後ニ生シタルト雖モ其保有ヲ得タル者ノ權ヲ他ノ一人ノ權ニ優レルモノトシ之ヲ其動産ノ所有者ト爲ス可シ但シ其者不正實ニ其保有ヲ得タル時ハ此限ニ非ス

第三節 事ヲ爲ス可キノ義務及ヒ事ヲ爲ササルノ義務

第九百七十九條 事ヲ爲ス可キノ義務又ハ事ヲ爲ササルノ義務アル者其義務ヲ行ハサル時ハ權利者ニ其損失ノ償ヲ爲スノ責ニ任ス可シ

第九百八十條 又權利者ハ義務者ノ契約ニ背キテ爲シタル諸件ヲ破滅ス可キノ訟求ヲ爲スコトヲ得可シ但シ其權利者ハ裁判所ノ允許ヲ得タル上其義務者ノ費用ヲ以テ其諸件ヲ破滅スルコトヲ得可ク且權利者其義務者ノ其義務ヲ行ハサルニ因リ損失ヲ受ケタル時ハ其損失ノ償ヲ爲サシムルコトヲ得可シ

第九百八十一條 又義務者ノ其義務ヲ行ハサル時ハ

權利者裁判所ノ允許ヲ得タル上其義務者ノ費用ヲ以テ他人ヲシテ其事ヲ行ハシムルコトヲ得可シ

第九百八十二條 事ヲ爲ス可キノ義務アル時ハ義務者ニ其義務ヲ行フヲ怠リタルノ責アル後ニ非サレハ權利者其損失ノ償ヲ得ント求ムルコトヲ得ス然レトモ事ヲ爲ササルノ義務アル時ハ義務者ノ其義務ニ背キタルコトノミニ因リ權利者直チニ其損失ノ償ヲ得ント求ムルコトヲ得可シ

第四節 義務ヲ行ハサルヨリ生スル損失ノ

償

第九百八十三條 義務者其義務ヲ行フヲ怠リタルノ責アル時ハ權利者ニ其損失ノ償ヲ爲ス可シ

第九百八十四條 義務者縱令不正ノ意アルニ非スト雖モ其義務ヲ行ハス又ハ其義務ヲ行フヲ遅延シタルニ因リ權利者ニ損失ヲ生セシメタル時ハ其損失ノ償ヲ爲スノ責ニ任ス可シ

第九百八十五條 義務者抗拒ス可カラサル力ニ因リ其義務ノ如ク人ニ物ノ所有ヲ移シ又ハ事ヲ爲スノ妨ケヲ受ケ又ハ其爲ス可カラサル事ヲ爲シタル時ハ權利者ニ其償ヲ爲スノ責ナシトス

第九百八十六條 義務者ヨリ權利者ニ爲ス可キ損失ノ償ハ其權利者ノ受ケタル損失ト失フタル利益トヲ併合シテ計算ス可シ但シ其償ノ事ニ付テハ後ノ數條ニ記スル所ニ循フ可シ

第九百八十七條 義務者詐欺ニ非スシテ其義務ニ背キタル時ハ嘗テ契約ヲ爲シタル時既ニ預知シタル損失ノ償及ヒ預知スルヲ得可キ損失ノ償ノミヲ爲ス可シ

第九百八十八條 義務者詐欺ニ因リ其義務ニ背キタル時ハ其權利者ノ受ケタル損失ト失フタル利益ト

ヲ一切償フ可キノ責ニ任ス可シ然レモ其損失ノ償ハ義務者ノ其義務ニ背キタルヨリ直接ニ生シタル所ノミニ限ル可シ

第九百八十九條 若シ義務者ノ其義務ニ背クヲアルニ於テハ權利者ニ若干ノ金額ヲ其償トシテ拂フ可キ旨ヲ約定スルヲ得可シ但シ其約定シタル金額ノ過當ナル時ハ裁判官之ヲ相當ノ額ニ減スルヲ得可シ

第九百九十條 義務者ヨリ權利者ニ金額ヲ拂フ可キノミノ義務アル時ハ其義務ヲ行フヲ遅延シタルニ

付テノ損失ノ償ハ法律上ニ定メタル利息ノ額ヲ拂
フノミニ限ル可シ但シ爲替手形及ヒ保証人ニ關シ
タル法則ハ此限ニ非ス

其權利者ハ別段損失ヲ受ケシコトヲ證スルニ及ハス
シテ其償ヲ得可シ

其損失ノ償即チ法律上ノ利息ヲ得ルニハ權利者ノ
裁判所ニ訟求シタル日ヨリ以來之ヲ得可キモノト
ス但シ權利者裁判所ニ訟求セスト雖モ義務者其義
務ヲ行フコトヲ遅延セシ時ヨリ當然其償ヲ爲ス可キ
コトヲ法律上ニ特ニ定メタル場合ハ此限ニ非ス

第九百九十一條 元金ノ利息ヲ拂ハサル時ハ之ヲ得

可キ者ノ訟求ニ因リ又ハ豫メ契約ヲ以テ定メタル
所ニ因リ其利息ノ利息ヲ拂フ可キノ義務アリ但シ
此ノ如ク利息ノ利息ヲ拂フ可キノ義務ヲ生スルハ
六箇月以上ノ利息ヲ拂ハサル時ニ限ル可シ

第九百九十二條 又土地ノ貸賃、家屋ノ貸賃、無期ノ年
金、畢生間ノ年金等ノ如キ入額ノ受取期限ニ至リシ
時ハ之ヲ得ント訟求シタル日又ハ別段ノ契約ヲ以
テ豫定シタル日ヨリ其利息ヲ生ス可シ
人ヨリ取戻ス可キ財産ノ入額及ヒ負債者ニ代リテ

其債主ニ拂フタル利息ニ付テモ亦此條ノ法則ヲ適用ス可シ

第五節 契約書ヲ解釋スル事

第九百九十三條 契約書ヲ解釋スルニハ其文詞ノミ

ニ拘泥セス其契約ヲ爲シタル双方ノ者ノ意旨如何

ヲ考究ス可シ

第九百九十四條 契約書ノ文詞ニ様ノ意ニ解セラル

ト時ハ其契約ノ效ナカラシム可キ意ニ解ス可カラ

ス其効ヲ生セシム可キ意ニ之ヲ解釋ス可シ又契約

ノ目的ニ適セサル意ニ解ス可カラヌ其契約ノ目的

ニ適シタル意ニ之ヲ解釋ス可シ

第九百九十五條 契約書ノ文詞其意味ノ不分明ナル

時ハ其契約ヲ結ヒタル地方ノ慣例ニ從テ之ヲ解釋

ス可シ

第九百九十六條 契約書中ノ文詞ハ其全文ノ大主意

ニ原キ互ニ相解釋ス可シ

第九百九十七條 契約書ノ文意ノ如何ニ廣博ニ涉ル

時ト雖モ其契約ヲ結ヒシ双方ノ者ノ互ニ契約シタ

ル可シト推知スルヲ得可キ物件ノミヲ包含シタル

モノト解釋ス可シ

第九百九十八條 契約書中ニ其義務ヲ明瞭ナラシム
可キ爲メ別段一箇ノ事物ヲ記シタルト雖モ其契約
ノ模様ニ因リ其他ノ事物ヲモ亦包含シタルコトヲ推
知ス可キニ於テハ其一箇ノ事物ノミニ限りタルモ
ノト看做ス可カラス

第九百九十九條 契約書ノ文詞曖昧ニシテ其趣意ノ
解ス可カラサル時ハ其義務者ノ利益トナリ權利者
ノ損失トナル可キ方ニ之ヲ判ス可シ

第六節 契約ヲ爲セシ以外ノ者ニ付キ其契
約ノ效

第一千條 契約ハ之ヲ爲シタル双方ノ間ニ非サレハ
其効ヲ生スルコトナシ故ニ其契約ヲ爲セシ以外ノ者
ノ爲メ損害ヲ生スルコトナク又第九百五十七條ニ記
シタル場合ノ外ハ其利益ヲ生スルコトナカシ可シ
第一千一條 權利者ハ義務者ニ代リ他人ニ對シテ其義
務者ノ諸權利ヲ行フコトヲ得可シ但シ義務者ノ一身
ニ限りタル權利ハ此限ニ非ス
第一千二條 又權利者ハ義務者ノ其權利ヲ害ス可キ爲
メ他人ト爲セシ契約ヲ取消サシテ其權利ヲ請求スル自己
ノ名目ニテ爲スコトヲ得可シ

然レ凡其權利者第七百六十八條及ヒ第一千二百四十
四條ニ記スル所ノ權利ヲ行フニ付テハ各其條ニ定
ムル所ノ法則ニ循フ可シ

第四章 契約ノ義務ノ種類

第一節 未必ノ條件ニ關スル義務

第一款 總テ未必ノ條件及ヒ其種類

第一千三條 將來ノ未定ノ事件ニ關シテ契約主ノ義務
ヲ生セシメ又ハ其義務ヲ消滅セシムル時ハ其義務
ヲ未必ノ條件ニ關スル義務ト云フ
將來ノ未定ノ事件ニ關シテ契約上ノ義務ヲ生セシ

ムル時ハ其未定ノ事件ヲ名ケテ義務ノ發生ヲ停止
スル未必ノ條件ト云フ

將來ノ未定ノ事件ニ關シテ契約上ノ義務ヲ消滅セ
シムル時ハ其未定ノ事件ヲ名ケテ義務ヲ解除スル
未必ノ條件ト云フ

第一千四條 偶生ノ未必ノ條件トハ其生スルト生セサ
ルト全ク偶然ニシテ其契約ヲ爲シタル双方ノ者ノ
力ニ全ク關セサルモノヲ云フ

第一千五條 契約ヲ爲ス者ノ意ニ關スル未必ノ條件ト
ハ其契約ヲ爲シタル者ノ中一方ノ力ニテ生セシム

ルト生セシメサルトヲ得可キ事件ニ關スルモノヲ云フ

第一千六條 渾同ノ未必ノ條件トハ契約ヲ爲シタル者ノ中一方ノ意ト其契約ヲ爲シタル以外ノ者ノ意トニ關スルモノヲ云フ

第一千七條 人ノ爲ス能ハサル事又ハ國ノ風俗ヲ亂ス可キ事又ハ法律上ニテ禁シタル事ヲ爲ス可キ未必ノ條件ハ其効ナキガ故ニ其條件ニ關シタル契約モ亦其効ナカル可シ

第一千八條 總テ未必ノ條件ハ契約ヲ爲シタル双方ニ

テ希望シ且思量シタル可シト推知スルヲ得可キ方ニ成就スルヲ必要トス

第一千九條 定期内ニ或事ノ生ス可キ未必ノ條件ニ關シタル義務ヲ約セシ時定期内ニ其事ノ生スルヲナキニ於テハ其條件全ク消滅セシモノト看做ス可シ
若シ又期限ノ定メナキ時ハ其事ノ生セサルノ確証アル時ニ非サレハ其條件ヲ消滅シタルモノト看做ス可カラス

第一千十條 定期内ニ或事ノ生セサル可キ未必ノ條件ニ關シタル義務ヲ約セシ時定期ニ至リ其事ノ生ス

ルヲナキニ於テハ其條件ノ完成シタルモノトス可
 シ又其定期中ト雖モ其事ノ生セサルノ確証アル時
 ハ亦其條件ノ完成シタルモノトス可シ若シ又期限
 ノ定メナキ時ハ其事ノ生セサルノ確証アル時ニ非
 カレハ其條件ノ完成シタルモノト看做ス可カラス
 第一千十一條 未必ノ條件ニ關シタル義務ヲ行フ可キ
 者ノ其條件ノ如ク成ル可キヲ妨ケシ時ハ猶ホ其條
 件ノ如ク成リタルモノト看做ス可シ
 第一千十二條 未必ノ條件ノ如ク成リシ時ハ其契約ヲ
 爲シタル日ニ溯リテ其効アリトス

若シ義務ヲ得可キ者未必ノ條件ノ如ク成リタル前
 ニ死去スル時ハ其財産相續人其權利ヲ繼承ス可シ
 第一千十三條 義務ヲ得可キ者ハ未必ノ條件ノ如ク成
 ル前ニ已レノ權利ヲ保全ス可キ處置ヲ爲スヲ得
 可シ

第二款 義務ノ發生ヲ停止スル未必ノ條
 件

第一千十四條 義務ノ發生ヲ停止スル未必ノ條件ニ關
 セシ契約ヲ爲シタル時ハ其義務ヲ行フ可キ者其契
 約ノ目的タル物件ノ損失ヲ已レニ擔任シ後ニ其未

必ノ條件ノ如ク成リシ時ニ非サレハ其物件ヲ引渡
スニ及ハス

若シ其義務ヲ行フヘキ者ノ過失ニ非スシテ其物件
ノ減盡シタル時ハ其義務生スルヲナシ

若シ其義務ヲ行フ可キ者ノ過失ニ非スシテ其物件
ノ損壞シタル時ハ其義務ヲ得可キ者其契約ヲ解除

スル歟然ラサレハ其物件ノ價ヲ減スルヲナク其現
在ノ景狀ノ儘ニテ之ヲ受取ルヲ得可シ

若シ其義務ヲ行フ可キ者ノ過失ニ因リテ其物件ノ
減盡シタル時ハ其義務ヲ得可キ者損失ノ償ヲ受ク

ルヲ得可シ

若シ其義務ヲ行フ可キ者ノ過失ニ因リテ其物件ノ
損壞シタル時ハ其義務ヲ得可キ者損失ノ償ヲ得テ

其契約ヲ解除スル歟然ラサレハ其物件ノ價ヲ減シ
テ其現在ノ景狀ノ儘ニテ之ヲ受取ルヲ得可シ

第三款 義務ヲ解除スル未必ノ條件
第一千十五條 義務ヲ解除スル未必ノ條件ノ如ク成リ

タル時ハ其義務ヲ解除シ初メヨリ全ク其義務ナキ
ト同一ノ景狀ニ復セシム可シ

此未必ノ條件ハ其義務ノ發生ヲ停止スルニ非ス其

條件ノ如ク成リシ時ハ權利者其管テ收受セシ物件
ヲ義務者ニ返還ス可シ

第一千十六條 双務ノ契約ハ若シ其契約ヲ爲セシ一方
ノ者ノ其義務ヲ行ハサル時ハ他ノ一方ノ者其契約
ヲ解除ス可キノ約定ヲ以テ之ヲ爲シタルモソト看
做ス可シ

此場合ニ於テハ契約ヲ爲セシ一方ノ者ノ其義務ヲ
行ハサルノミニ因リ他ノ一方ノ者當然之ヲ解除ス
ルコトヲ得ス必ス之ヲ裁判所ニ訟ヘタル上損失ノ償
ヲ得テ其契約ヲ解除シ又ハ其義務ヲ行ハサル者ヲ

シテ強テ其義務ヲ行ハシムルコトヲ得可シ但シ裁判
所ニ於テハ其時ノ景狀ニ從ヒ訟護者ニ相當ノ猶豫
ヲ許スコトヲ得可シ

第二節 執行ノ期限アル義務

第一千十七條 義務ヲ執行スル期限ノ約定ハ義務ノ發
生ヲ停止スルニ非ス唯其義務ノ執行ヲ其期限ニ至
ル迄遷延スルニ因リ未必ノ條件ノ約定トハ差異アリ

第一千十八條 約定ノ期限ニ至テ得可キ義務ハ其期限
ニ至ル前ニ之ヲ得ント要ムルコトヲ得ス然レモ其期

限ニ至ル前ニ渡シタル物件ハ之ヲ取戻スコトヲ得ス
 第一千九條 義務ノ期限ハ其義務ヲ行フ可キ者ノ爲
 メ之ヲ約シタルモノト看做ス可シ但シ契約ノ文詞
 又ハ其時ノ景狀ニ因リ其義務ヲ得可キ者ノ爲メ期
 限ヲ定メタルコトノ分明ナル時ハ此限ニ非ス

第一千十條 若シ義務ヲ行フ可キ者家資分散ヲ爲シ
 又ハ其財産ヲ合シテ其義務ヲ行フニ足ラサル時又
 ハ其義務ヲ行フ可キ者ノ管テ契約ヲ以テ義務ヲ得
 可キ者ニ供セシ保証ノ高ヲ自己ノ所爲ニ因テ減損
 シタル時ハ其期限ノ利益ヲ失フ可シ

第三節 二箇中ノ一ヲ擇ムコトヲ得可キ義務

第一千十一條 二箇中ノ一ヲ擇ムコトヲ得可キ義務ヲ
 行フ可キ者ハ其契約ニ定メタル二箇ノ物件中其一
 ヲ權利者ニ引渡スニ因リ其義務ヲ免ル可シ

第一千十二條 權利者其二箇ノ義務中其一ヲ擇ム可
 キコトヲ別段約定シタル時ノ外ハ其義務者之ヲ擇ム
 可シ

第一千十三條 義務者ハ契約ニ定メタル二箇ノ物件
 中其一ヲ權利者ニ引渡スニ因リ其義務ヲ免ル可シ
 雖モ其權利者ヲシテ此ノ物ノ一部ト彼ノ物ノ一

部トヲ收受セシムルヲ得ス

第一千二十四條 若シ契約ニ定メタル二箇ノ物件中其一箇ノ契約ノ目的ト爲ス可カラサル物タル時ハ縱令二箇中ノ一ヲ擇ム可キノ契約ヲ爲シタルト雖モ其契約ノ義務ヲ單一ノモノトス

第一千二十五條 若シ契約ニ定メシ二箇ノ物件中其一ノ滅盡シタル時ハ義務者ノ過失ニ因ルト否トヲ問ハス其二箇中ノ一ヲ擇ム可キノ義務ノ性質變更シテ單一ノ義務トナル可シ但シ此場合ニ於テハ義務者其權利者ヲシテ其滅盡シタル物ニ代ヘ其價ヲ收受

セシムルヲ得ス

若シ其二箇ノ物件ノ共ニ滅盡シテ其中一箇ハ義務者ノ過失ニ因リ滅盡シタル時ハ義務者後ニ滅盡シタル物件ノ價ヲ權利者ニ償フ可シ

第一千二十六條 又前條ニ記シタル場合ニ於テ權利者其契約ニ因リ二箇ノ物件中其一ヲ擇ム可キノ權ヲ得タル時ハ義務者ノ過失ニ非スシテ其二箇中一箇ノ滅盡シタルニ於テハ權利者後ニ存在シタル一箇ヲ收受スルヲ得可ク又義務者ノ過失ニ因リテ其二箇中一箇ノ滅盡シタルニ於テハ權利者後ニ存在シ

タル一箇ヲ收受シ又ハ滅盡シタル一箇ノ價ヲ收受
スルコトヲ得可シ

若シ又其二箇ノ物件ノ共ニ滅盡シテ義務者其二箇
ニ付キ過失アル時ハ勿論其中一箇ノミニ付キ過失
アル時ト雖モ權利者其二箇ノ物件中ニテ已レノ擇
ム一箇ノ價ヲ收受スルコトヲ得可シ

第千二十七條 若シ義務者ノ過失ニ非ス且其者物件
ノ引渡ヲ怠リタルノ責ナクシテ二箇ノ物件ノ共ニ
滅盡シタル時ハ第千百十六條ノ法則ニ循ヒ其義務
全ク消滅ス可シ

第千二十八條 三箇以上ノ中其一ヲ擇ム可キ義務ニ
付テモ亦前數條ニ記スル法則ヲ適用ス可シ

第四節 連帶ノ義務

第一款 權利者ノ連帶シタル事

第千二十九條 若シ契約ニ權利者ノ各人ニ其權利ノ
全部ヲ得ント求ム可キノ權利アリテ且義務者其權
利者中ノ一人ニ對シ其義務ヲ盡スニ因リ其義務ヲ
免ル可キ旨ヲ特ニ定メタル時ハ權利者數人相連帶
シテ其義務ヲ得可キモノトス但シ其義務ヲ得タル
ノ利益ヲ其各權利者ノ間ニ分ツ可キ時ト雖モ亦同

一ナリトス

第一千三十條 義務者其權利者中ノ一人ヨリ訟求ヲ受ケタル時ノ外ハ其連帶シテ義務ヲ得可キ權利者中何レノ人ニ對シテ其義務ヲ盡ストモ隨意ナリトス又連帶シテ義務ヲ得可キ權利者中ノ一人其義務ヲ釋放シタル時ハ義務者唯其釋放セシ者ノ部分ノミヲ免レタリトス可シ

第一千三十一條 連帶シテ義務ヲ得可キ權利者中ノ一人義務者ノ期滿免除ヲ得可キ定期中ノ時間ヲ除棄スル所爲ヲ行フタル時ハ他ノ連帶ノ權利者モ亦之

カ爲メ其利益ヲ受ク可シ

第二款 義務者ノ連帶シタル事

第一千三十二條 義務者數人同一ノ義務ヲ負ヒ且其各人其義務ノ全部ヲ行フ可クシテ其中ノ一人其義務ノ全部ヲ行フニ因リ其他ノ各人其權利者ニ對シテ其義務ノ免除ヲ得可キ時ハ其義務者數人相連帶シタルモノトス

第一千三十三條 義務者數人同一ノ義務ヲ負フタル時ハ之ヲ行フ可キ方法ノ互ニ相異ルト雖モ之ヲ義務者數人ノ相連帶シタルモノト爲スヲ得可シ例ヘ

ハ其數人中一人ノ義務ハ通常ノモノニシテ他ノ者
ノ義務ハ未必ノ條件ニ關シタル時又ハ其一人ハ義
務ヲ行フニ付テノ期限ヲ得他ノ者ハ其期限ヲ得サ
ル時ト雖モ其義務ヲ行フ可キ數人ヲ相連帶シタル
モノト爲スカ如シ

第一千三十四條 義務者數人ノ連帶シタルコトハ思量ヲ
以テ之ヲ定ム可カラス特ニ其旨ヲ約定シタルコトヲ
必要トス但シ其約定ナシト雖モ法律ノ規定ニ因リ
義務者數人ノ當然連帶ス可キ場合ハ此限ニ非ス

第一千三十五條 權利者ハ連帶ノ義務者數人中ニテ自

己ノ擇ム所ノ者ニ對シ其義務ノ全部ヲ行ハシム可
キノ求メヲ爲スコトヲ得可ク其義務者ハ其義務ヲ數
人ニ分ツテ之ヲ行フ可キコトヲ述ヘ對抗スルコトヲ得
ス

第一千三十六條 連帶ノ義務者中ニテ權利者ヨリ訟求
ヲ受ケタル者ハ其義務ノ全部ヲ行フ可シト雖モ他
ノ連帶ノ義務者ヲ其擔保者トシテ呼出ス爲メノ猶
豫ヲ求ムルコトヲ得可シ

第一千三十七條 權利者ハ連帶ノ義務者中ノ一人ニ對
シ訟求ヲ爲シタル時ト雖モ亦他ノ連帶ノ義務者ニ

對シ訟求ヲ爲スモ妨ケナシ

第一千三十八條 若シ連帶ノ義務者中一人ノ過失ニ因リ其引渡ス可キ物件ノ滅盡シ又ハ其一人ノ其物件ヲ引渡スコトヲ怠リシ責ノ生シタル後ニ其物件ノ滅盡シタル時ト雖モ他ノ連帶ノ義務者ハ其物件ノ價ヲ償フ可キノ義務ヲ免ル、コトヲ得ス然レモ損失ノ償ハ之ヲ擔任スルニ及ハス

前項ノ場合ニ於テ權利者ハ其連帶ノ義務者中ニテ其過失ニ因リ其物件ヲ滅盡セシノタル者又ハ其物件ヲ引渡スコトヲ怠リシ責アル者ノミニ對シ其損失

ノ償ヲ得シト求ムルコトヲ得可シ

第一千三十九條 權利者連帶ノ義務者中ノ一人ニ對シテ期滿免除定期中ノ時間ヲ除棄ス可キ所爲ヲ行フタル時ハ其他ノ連帶ノ義務者ニ對シテモ亦期滿免除定期中ノ時間ヲ除棄シタルモノト爲ス可シ

第一千四十條 權利者連帶ノ義務者中ノ一人ニ對シテ裁判所ニ訟求ヲ爲シタル時ハ其訟求ヲ受ケシ者ニ付キ利息ヲ償フ可キノ義務ヲ生スルノミナラス他ノ連帶ノ義務者ニ付テモ亦利息ヲ償フ可キノ義務ヲ生スルモノトス

第一千四十一條 連帶ノ義務者中ノ一人權利者ヨリ訟
 求ヲ受ケル時ハ其義務ノ本質ヨリ生ス可キ抗辨ノ
 憑據及ビ連帶ノ義務者數人共同ノ抗辨ノ憑據ト自
 己ノ一身ノミニ屬スル抗辨ノ憑據トヲ申述シテ其
 訟求ニ抗拒スルコトヲ得可シ然レモ其訟求ヲ受ケシ
 者ハ他ノ連帶ノ義務者ノ一身ノミニ屬スル抗辨ノ
 憑據ヲ申述シテ其訟求ニ抗拒スルコトヲ得ス
 第一千四十二條 連帶ノ義務者中ノ一人權利者ノ財產
 相續人トナル時又ハ權利者其連帶ノ義務者中ノ一
 人ノ財產相續人トナル時ハ連帶ノ義務者中其一人

ノ擔任ス可キ義務ノ部分ハ權利ト義務ト混同ス
 ニ因リ消滅ス可シ
 第一千四十三條 權利者連帶ノ義務者中ノ一人ノ部分
 ヲ分ツテ承諾シタルト雖モ猶其他ノ數人連帶ノ
 連帶シテ義務ヲ行ハシムルハ權アリ但シ其連帶ノ
 釋放ヲ受ケシ一人ノ部分ハ其連帶ノ義務中ヨリ之
 ヲ減ス可シ
 第一千四十四條 權利者其連帶ノ義務者中一人ノ擔任
 ス可キ部分ヲ得テ其受取證書ニ其得タル所ハ其一
 人ノ部分ヲ別段記載シタルニ於テハ

其一人ノ連帶ヲ釋放シタルモノト爲ス可シ但シ其
 受取証書ニ其一人猶他ノ數人ト連帶シテ義務ヲ行
 フ可キ旨ヲ別段記載シタル時ハ此限ニ非ス
 又權利者其連帶ノ義務者中ノ一人ニ對シ其一人ノ
 部分ヲ得ント訟求シタルト雖モ其一人其求メテ承
 諾セサル歟又ハ裁判所ヨリ其一人ニ其部分ノミヲ
 行フ可キノ言渡ヲ爲サ、ル間ハ亦其一人ハ連帶ヲ
 釋放シタルト爲ス可カラズ
 第千四十五條 權利者其得可キ年金ノ中又ハ負債利
 息ノ中ニテ連帶ノ義務者中一人ノ部分ヲ分ツテ之

ヲ受取リ其受取証書ニ其得タル所ハ其一人ノ部分
 ヲ別段記載シタル時ハ其既ニ拂ヒ期
 限ニ至リシ年金又ハ利息ニ付キ其一人ハ連帶ヲ釋
 放シタルト爲ス可ク其後受取ル可キ年金又ハ利息
 及ビ元金ニ付テハ其一人ハ連帶ヲ釋放シタルト爲
 ス可キ旨ヲ別段記載シタル時ハ此限ニ非
 ス
 第千四十六條 連帶ノ義務者中ノ一人權利者ニ對シ
 其義務ヲ全部履行スル時ハ其連帶シテ他數人ハ

間ニ當然之ヲ分ツ可ク其數人ハ各自ノ部分ヲ擔任
ス可キニシテ其數人ノ一人ノ義務ニ對シテ

第一千四十七條 連帶ノ義務者中ノ一人其義務ノ全部
履行スル時ハ其他ノ數人ニ對シ其各自ノ部分ノ
償還ヲ得シト求ルルヲ得可シ
若シ其數人中ニ己ノ部分ヲ償フ能ハサル者
少クハ其者ノ己ノ部分ヲ償フ不能ナルニ因リ
坐ス可キ損失ヲ其義務ノ全部ヲ行フタル一人ニ其
他ノ數人トニ各其擔任ス可キ義務ノ割合ニ從ヒ之
ヲ分與可シ

第一千四十八條 權利者連帶ノ義務者中ノ一人ニ對シ
義務ノ連帶ヲ釋放シタル時ト雖モ他ノ數人中ニ己
レノ義務ヲ行フ能ハサル者アルニ於テハ其者ノ
部分ヲ連帶ノ釋放ヲ受ケシ一人ト其他ノ數人トニ
分ツ可シ

第一千四十九條 連帶ノ義務者中一人ノミノ利益ノ爲
メニ負フタル連帶ノ義務ハ其一人他ノ數人ニ對シ
テハ其義務ノ全部ヲ擔任ス可シ
第五節 契約ノ如ク行ハサル時ハ過代ヲ出
ス可キノ約定アル義務

第一千五十條 過代ノ約定トハ義務者其義務ノ執行ヲ
 保証ス可キ爲メ若シ其義務ヲ行ハサル歟又ハ其義
 務ヲ行フヲ遅延シタル時ハ權利者ノ受クル損失ノ
 償トメ過代ヲ出ス可キ旨ヲ定ムル約束ヲ云フ但シ
 此事ニ付テハ第九百八十九條ノ法則ヲ適用ス可シ
 第一千五十一條 主タル義務ノ効ナキ時ハ過代ノ約定
 亦其効ナカル可シ
 過代ノ約定ノ効ナキ時ト雖モ主タル義務ノ効ナシ
 トセス

第一千五十二條 權利者ハ義務者ニ其義務ヲ行フヲ怠

リタルノ責アル時過代ノ義務ノ執行ヲ求メスシテ
 主タル義務ノ執行ヲ求ムルヲ隨意ナリトス

第一千五十三條 權利者ハ主タル義務ノ執行ト過代ノ

義務ノ執行トヲ共ニ得ント求ムルヲ得ス但シ主
 タル義務ノ執行ヲ遅延スルニ因リ過代ヲ出ス可キ
 一ヲ約定シタル場合ハ此限ニ非ス

第一千五十四條 主タル義務ヲ行フ可キ期限ヲ定メタ

ルト否トヨ問ハス義務者其主タル義務ヲ執行ヲ怠
 リタルノ責アル時ニ非サレハ過代ノ義務ヲ執行ス
 ルニ及ハス

第千五十五條 義務者主タル義務ノ一部ヲ行フタル

時ハ裁判官其過代ノ高ヲ減スルコトヲ得可シ

第千五十六條 金額ヲ以テ主タル義務ノ目的ト爲シ

タル場合ニ於テ若シ其過代ノ高、法律上ノ利息ノ額

ニ過キタル時ハ之ヲ其法律上ノ利息ノ額ニ減ス可

シ

第五章 義務ノ消滅スル事

第千五十七條 契約ノ義務ハ左ノ數件ニ因テ消滅ス

第一 義務ヲ尽クス事

第二 義務ノ更改スル事

第三 權利者ノ意ヲ以テ義務ヲ釋放スル事

第四 二箇ノ義務互ニ相殺スル事

第五 權利ト義務ト混同スル事

第六 義務ノ目的タル物件ノ滅盡スル事

第七 契約ヲ取消ス事

第八 義務ヲ解除スル未必ノ條件ノ生スル事

但シ此事ハ前章ニ之ヲ記ス

第九 期滿得免ノ權ヲ得タル事

但シ此事ハ別卷ニ之ヲ記ス

前ニ記列スル所ノ外或種ノ契約ニ付キ其義務

ヲ消滅セシム可キ特別ノ原由アリト雖モ其原
由ハ各其契約ノ卷ニ之ヲ記ス

第一節 義務ヲ盡ス事

第一款 總テ義務ヲ盡ス事

第一千五十八條 此人ヨリ彼人ニ義務ヲ盡シタル時ハ
必ス盡ス可キノ義務アリテ之ヲ盡シタルモノト思
量ス可シ若シ盡ス可キノ義務ナクシテ義務ヲ盡ク
シタル時ハ其所有ヲ移シタル物件ヲ取戻スヲ得
可シ
自己ノ意ヲ以テ天然上ノ義務ヲ盡クシ物件ノ所有

ヲ人ニ移シタル時ハ之ヲ取戻スヲ得ス

第一千五十九條 義務ハ本人ニ非スト雖モ本人ト共ニ

之ヲ行フ可キ者又ハ保証人等ノ如ク總テ其義務ニ

關係アル者之ヲ盡クスヲ得可シ

又義務ニ關係ナキ者ト雖モ其義務者ニ代リテ之ヲ
行フタル時ハ其義務ヲ尽クシタルト不可シ

第一千六十條 事ヲ爲ス可キノ義務アル時權利者其義

務者ノ自カラ之ヲ行フヲ欲スルニ於テハ其義務
ニ關係ナキ者其權利者ノ意ニ背キ義務者ニ代リテ
其義務ヲ尽クスヲ得ス

第一千六十一條 義務者法ニ適シテ其義務ヲ尽サント
 スルニハ其義務ヲ尽クス爲メ權利者ニ其所有權ヲ
 移ス可キ物件ノ所有者ニシテ且其物件ノ所有權ヲ
 移ス可キノ能力アルヲ必要トス
 然レモ義務者若シ錯誤ニ因リ他人ニ歸スル物件ノ
 所有權ヲ其權利者ニ移シタル時ハ之ヲ取戻シテ更
 ニ已レノ所有スル物件ヲ渡サント訟求スルトヲ得
 可シ但シ其權利者誠實ノ意ヲ以テ其既ニ受取りタ
 ル物件ヲ消費シタル時ハ此限ニ非ス
 第一千六十二條 義務者ハ其權利者又ハ其名代人又ハ

裁判言渡及ヒ法律ニ因リ權利者ニ代リテ物件ヲ受
 取ル可キ者ニ其義務ヲ尽ス可シ
 義務者若シ權利者ニ代リテ物件ヲ受取ル可キノ權
 ナキ者ニ其義務ヲ尽シタル時ハ其義務ヲ尽シタリ
 トセス但シ權利者ノ之ヲ承認シ又ハ權利者ノ之ニ
 因リ利益ヲ得タル時ハ此限ニ非ス
 第一千六十三條 義務者權利者ニ其義務ヲ尽シタルト
 雖モ若シ其權利者ノ無能力者タル時ハ其義務ヲ尽
 シタリトセス但シ義務者其義務ヲ尽クス爲メ渡シ
 タル物件ノ其權利者ノ利益トナリシ旨ヲ証スル時

ハ此限ニ非ス

第一千六十四條 甲ナル義務者其權利者タル乙者ニ義務ヲ尽ストテ其乙者ノ權利者タル丙者ヨリ差留メヲレタル時其差留ニ關セス甲者ヨリ乙者ニ其義務ヲ尽クシタルニ於テハ丙者ニ對シテハ其義務ヲ尽クシタリトス可カラズ丙者ハ甲者ヲシテ更ニ再ヒ其義務ヲ已レニ對シ尽サシムルトテ訟求スルヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ甲者ヨリ乙者ニ對シ其渡シタル物件ヲ取戻サント訟求スルヲ得可シ

第一千六十五條 義務者其義務ヲ尽クス爲メ其權利者

ニ渡ス可キ物件ニ代ヘテ他ノ物件ヲ渡サントスルト雖モ權利者必スシモ之ヲ受取ルニ及ハス但シ其價ノ原物ノ價ニ等シク又ハ更ニ貴キ時ト雖モ亦同一ナリトス

第一千六十六條 義務者ハ其權利者ノ意ニ背キ其義務ノ一部ノミヲ行フコトヲ得ス必ス其全部ヲ盡クス可シ

然レモ裁判官ハ誠實ナル義務者ノ不幸ナル景狀ヲ考ヘ其義務ノ一部ヲ行ハシメ他ノ一部ヲ行フニ付テハ相當ノ猶豫ヲ許スコトヲ得ヘシ但シ裁判官此權

ヲ行フニ付テハ極メテ注意スヘシ
 第一千六十七條 特定ノ物件ヲ渡ス可キノ義務アル者
 ハ之ヲ渡ス可キ時ノ景狀ノ儘之ヲ渡スニ因リ其義
 務ヲ盡クシタリトス可シ但シ其義務者自己ノ過失
 ニ因リ又ハ自己ノ管照スル者ノ過失ニ因リ其物件
 ヲ損壞シタル歟又ハ其過失ニ非ラスト雖モ義務者
 其物件ヲ渡スコトヲ怠リタルノ責アル時其物件ノ損
 壞シタル場合ハ此限ニ非ス

第一千六十八條 種類ノミノ定マリシ物件ヲ渡ス可キ
 ノ義務アル者其義務ヲ尽クサントスルニハ其種類

中ノ最モ良好ノ物ヲ渡スニ及ハス又最モ粗惡ノ物
 ヲ渡スコトヲ得ス

第一千六十九條 義務ヲ尽クスコトハ契約ヲ以テ定メシ
 地ニ於テ之ヲ爲ス可シ若シ其地ヲ定メスシテ其渡
 ス可キ物件ヲ特定シタルニ於テハ其契約ヲ爲シタ
 ル時其物件ノアリシ地ニ於テ之ヲ爲ス可シ此二箇
 ノ場合ノ外ハ總テ義務者ノ住所ニ於テ之ヲ爲ス可
 シ

第一千七十條 義務ヲ尽クスニ付テノ費用ハ義務者之
 ヲ擔任ス可シ

第二款 義務者ニ代リテ其義務ヲ尽クシ
タル人權利者ノ權ニ代ル事

第七十一條 義務者ニ代リテ權利者ニ其義務ヲ尽クシタル者ハ其權利者ノ權ニ代ルコトヲ得可シ但シ此事ハ契約ヨリ之ヲ生シ又ハ法律上ニテ之ヲ生ス
第七十二條 前條ニ記スル代權ノ事ハ左ノ二箇ノ場合ニ於テハ契約ヨリ之ヲ生ス可シ

第一 權利者タル甲者丙者ヨリ義務ヲ得タルニ因リ其義務者タル乙者ニ對スル自己ノ權利ヲ丙者ニ移シタル時但シ此代權ノ事ハ丙

者ノ乙者ニ代リテ義務ヲ尽シタルト同時ニ之ヲ契約書ニ記シ置ク可シ

第二 義務者タル乙者其權利者タル甲者ニ其義務ヲ尽クス可キ爲メ丙者ヨリ金額ヲ借受ケ丙者ヲシテ其權利者タル甲者ノ權ニ代ラシムル時

此代權ノ事ヲ適法ノモノト爲スニハ乙者ノ丙者ヨリ金額ヲ借受クル証書及ヒ甲者ノ受取證書ヲ公証人ニ記セシメ其金額借受ノ証書ニハ其金額ハ義務ヲ尽クス可キ爲メ之ヲ

借受ケタル旨ヲ附記シ且甲者ノ受取証書ニ
ハ乙者ノ別段其借入タル金額ヲ以テ其義務
ヲ尽クシタル旨ヲ附記ス可シ但シ此代權ノ
事ハ別段權利者ノ承諾ヲ得スシテ之ヲ爲ス
トヲ得可シ

第七十三條 代權ノ事ハ左ノ四箇ノ場合ニ於テハ
法律上ニテ生ス可シ

第一 乙者ヨリ義務ヲ得可キ權利アル甲者他
ノ書入質ノ權又ハ先取りノ特權アル權利者
ニ乙者ニ代リテ其義務ヲ尽クシタル時

第二 義務者タル乙者ヨリ不動産ヲ買入シタ
ル甲者其不動産ニ付キ書入質ノ權アル權利
者ニ其買入代金ヲ以テ償還ヲ爲シタル時

第三 甲者ノ乙者ト共ニ義務ヲ擔任シ又ハ乙
者ノ爲メニ義務ヲ擔任シタル場合ニ於テ其
義務ヲ尽クシタル時

第四 遺留財産ノ價ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハ
サル特權アル財産相續人其遺留財産ニ付テ
ノ負債ヲ自己ノ財産中ヨリ償還シタル時

第七十四條 前數條ニ循ヒ丙者乙者ニ代リテ甲者

ニ義務ヲ尽クシタルニ因リ甲者ノ權ニ代リタル時
ハ丙者其乙者ト其保証人トニ對シ其代權ノ旨ヲ申
述スルヲ得可シ
又權利者ノ其權利ノ一部ノミヲ得タル時ハ代權者
ノ爲メニ自己ノ權利ヲ害セラル、コナカル可シ故
ニ其權利者ハ代權者ニ先キ立テ自己ノ權利ヲ求ム
ルヲ得可シ

第三款 數箇ノ義務中ノ一ヲ尽クスニ充
テ用フル事

第一千七十五條 一人ニ對シ數箇ノ義務ヲ負フタル者

ハ其義務ヲ盡クス時ニ當リ其數箇ノ義務中何レノ
義務ヲ盡クス可キヤヲ定ムルヲ得可シ

第一千七十六條 利息又ハ年金ヲ生スル債ヲ負フタル
者其義務ノ一部ヲ盡クス時ハ先ツ其利息又ハ年金
ヲ償フニ之ヲ充テ用ヒ然ル後其主タル債ヲ償フニ
充テ用フ可シ但シ之ニ反シタル償方ヲ爲サントス
ルニハ權利者ノ承諾ヲ得ルコトヲ必要トス
第一千七十七條 數箇ノ義務ヲ負フタル其義務ヲ尽ク
シタル時之ヲ得タル權利者其數箇中何レノ義務ヲ
尽クスニ之ヲ充テ用フルヤヲ定メ其義務者其旨ヲ

記セシ受取書ヲ受諾シタルニ於テハ更ニ他ノ義務
 ヲ尽クヌニ之ヲ充テ用ヒント求ムルコトヲ得ス但シ
 其權利者ニ詐欺アル時ハ此限ニ非ス
 第七十八條 義務ヲ得タル權利者ノ受取書ニ數箇
 ノ義務中何レノ義務ヲ尽クヌニ充テ用フルヤヲ別
 段定メサル時ハ義務者其尽クヌ可キ期限ニ至リシ
 數箇ノ義務中ニテ先ニ尽クヌヲ以テ已レノ利益ト
 爲ス義務ヲ尽クヌニ充テ用フ可シ又其數箇ノ義務
 中ニテ既ニ之ヲ尽クヌ可キ期限ニ至リシモノト未
 タ之ヲ尽クヌ可キ期限ニ至ラサルモノトアル時ハ

既ニ尽クヌ可キ期限ニ至リシ義務ヲ尽クヌニ充テ
 用フ可シ又數箇ノ義務ノ性質互ニ相同シキ時ハ其
 義務中最舊ノモノヲ尽クヌニ充テ用フ可ク又其數
 箇ノ義務ノ性質互ニ相同シクシテ且新舊ノ別ナキ
 時ハ數箇ノ義務ノ額ニ准シテ其義務ヲ尽クヌニ充
 テ用フ可シ
 第四款 義務者其義務ヲ尽クサント供陳ス
 ル事及ヒ其義務ノ目的タル物件ヲ預貯金
 役所ニ預クル事
 第七十九條 權利者義務者ヨリ其義務ノ目的タル

金額ヲ受取ルコトヲ承諾セサル時ハ義務者其金額ヲ
 其權利者ニ渡サント供陳シテ現ニ之ヲ示シ若シ其
 權利者猶之ヲ受取ルコトヲ承諾セサル時ハ其金額ヲ
 預リ金役所ニ預クルコトヲ得可シ
 義務者其金額ヲ渡サント供陳シテ其後之ヲ預リ金
 役所ニ預ケ其供陳ノ適法ノモノタル時ハ義務ヲ尽
 クシタルニ等シキ効アリトス但シ其預リ金役所ニ
 預ケタル金額ハ權利者ノ擔任タル可シ
 第一千八十條 前條ニ記シタル供陳ヲ適法ノモノト爲
 スニ於テ左ノ諸件ヲ必要トス

第一 金額ヲ受取ル可キノ能力アル權利者又
 ハ其權利者ニ代リテ之ヲ受取ル可キノ權
 者ニ供陳ヲ爲ス事

第二 義務ヲ尽ス可キノ能力アル義務者ヨリ
 其供陳ヲ爲ス事

第三 義務ノ目的タル金額ノ全部及ヒ其利息
 ノ全部並ニ既ニ算定シタル費用高ノ全部及
 ヒ未タ算定セサル費用ノ見積リ高ヲ渡サン
 ト供陳スル事但シ其未タ算定セサル費用見
 積リ高ノ不足ナル時ハ義務者後ニ之ヲ補足

ス可シ

第四 權利者ノ爲メニ其義務ヲ行フ可キ期限
ヲ約定シタル時ハ其期限ニ至リシ事

第五 嘗テ義務ヲ契約セシ時ニ未必ノ條件ヲ
預定シタルニ於テハ其未必ノ條件ノ如ク成
リタル事

第六 義務ヲ行フ爲メ預メ約定シタル地ニ於
テ供陳ヲ爲ス事又其義務ヲ行フ可キ地ノ事
ニ付キ別段ノ約定ナキ時ハ權利者ノ住所ニ
於テ供陳ヲ爲ス事

第七 裁判所ノ使吏ニ託シテ其供陳ヲ爲サシ
ムル事

第千八十一條 預リ金役所ニ預クルヲ適法ノモノ
ト爲スニハ左ノ諸件ヲ必要トス

第一 其金額ヲ預リ金役所ニ預クル前ニ之ヲ
預ク可キ日時及ヒ其場所並ニ其場所ニ立會
フ可キ旨ヲ記シタル書面ヲ裁判所ノ使吏ヲ
シテ其權利者ニ送達セシムル事

第二 義務者其渡サント供陳セシ金額ト之ヲ
預クル日ニ至ル迄ノ利足トヲ預リ金役所ニ

預クル事

第三 裁判所ノ使吏ヲシテ其渡サント供陳セ
 シ金額ノ種類、權利者其金額ヲ受取ルヲ承
 諾セサル旨、金額ヲ預クル時權利者ノ立會ヲ
 爲サ、ル時ハ其立會ヲ爲サ、ル旨、義務者ノ
 其金額ヲ預リ金役所ニ預ケタル旨ヲ記シタ
 ル調書ヲ作ラシムル事

第四 義務者ノ金額ヲ預リ金役所ニ預ケタル
 時權利者ノ立會ヲ爲サ、ルニ於テハ前項ニ
 記スル調書ト其預リ金役所ニ預ケタル金額

ヲ受取ル可キ旨ヲ求ムル書面トヲ裁判所ノ
 使吏ヲシテ其權利者ニ送達セシムル事

第千八十二條 義務者其權利者ニ金額ヲ渡サント供
 陳スル事及ヒ之ヲ預リ金役所ニ預クル事ノ適法ノ
 モノタル時ハ權利者其費用ヲ擔任ス可シ

第千八十三條 義務者其金額ヲ預リ金役所ニ預ケタ
 ル後權利者ノ未タ之ヲ承諾セサル間ハ義務者其金
 額ヲ取戻スルヲ得可シ但シ其義務者ノ其金額ヲ取
 戻シタル時ハ其者ト連帶シテ義務ヲ行フ可キ者又
 ハ其保証人其義務ヲ免ルルコトヲ得ス

第一千八十四條 義務者ヨリ權利者ニ其義務ノ目的タル金額ヲ渡サント供陳シ且之ヲ預リ金役所ニ預ケタル後其權利者ノ之ヲ承諾シタル時又ハ此等ノ諸事ノ適法ノモノタルノ裁判言渡アリテ其裁判言渡ノ變更ス可カラサル裁判ノ効力ヲ得タル時ハ義務者眞ニ完カ其義務ヲ免ルコトヲ得可シ

第一千八十五條 前條ノ場合ニ於テハ義務者其預リ金役所ニ預ケシ金額ヲ其權利者ノ承諾ヲ得テ取戻スト雖モ連帶ノ義務者又ハ保証人ノ義務ヲ再ヒ生セシムルコトヲ得ス又既ニ消滅セシ義務ヲ擔保セシ先

取リノ特權又ハ不動産書入質ノ權ヲ以前ニ復セシムルコトヲ得ス

第一千八十六條 若シ義務者ヨリ權利者ニ物件ヲ渡ス可キノ義務アリテ其物件ヲ其所在ノ地ニ於テ引渡ス可キ時ハ其權利者ノ來テ之ヲ受取ル可キ旨ヲ求ムル書面ヲ義務者ヨリ裁判所ノ使吏ヲシテ權利者ニ送達セシム可シ
權利者其書面ヲ受取りタル後猶其物件ヲ受取りニ來ラサル時ハ義務者ヨリ裁判所ニ訟へ裁判所ヨリ指シ定メタル場所ニ其物件ヲ預クルコトヲ得可シ

第三節 義務ノ更改スル事

第一千八十七條 義務ハ左ノ三箇ノ方法中ノ一ニ因リ

更改ス可シ

第一 義務者權利者ニ對シ從來ノ義務ニ代ヘ

更ニ新タル義務ヲ契約シ從來ノ義務ノ消

滅スル事

第二 新タル義務者從來ノ義務者ニ代リタ

スル事

第三 新タル權利者從來ノ權利者ニ代リタ

スル事

義務ヲ免ル、事

第一千八十八條 義務ノ更改ハ契約ヲ爲シ得キ能力

アル者ノ間ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第一千八十九條 義務ノ更改ハ思量ヲ以テ定ム可カラ

ス其更改ヲ爲シタルノ意アル旨ヲ契約証書ニ因リ

知リ得可キコトヲ必要トス

第一千九十條 新タル義務者ノ從來ノ義務者ニ代ル

ニ因リ其義務ヲ更改スルコトハ從來ノ義務者ノ承諾

ナクシテ之ヲ爲スコトヲ得可シ

第一千九十一條 從來ノ義務者已レニ代リテ其義務ヲ

行フ可キ者ヲ定メシ旨ヲ權利者ニ申述スト雖モ其
權利者從來ノ義務者ヲ釋放ス可キ旨ヲ承諾シタル
トテ契約証書ニ因リ知り得可キ時ニ非サレハ其義
務ノ更改スルコトナカル可シ

第千九十二條 權利者從來ノ義務者ヲ釋放シタル時
ハ新タナル義務者ノ其義務ヲ尽クス能ハサルニ至
ルコトアリト雖モ從來ノ義務者ニ對シ償還ヲ得可キ
ノ求メヲ爲スコトヲ得ス但シ權利者ヨリ從來ノ義務
者ニ對シ償還ノ求メヲ爲シ得可キ旨ヲ別段契約証
書ニ記シタル時又ハ新タナル義務者ノ從來ノ義務

者ニ代リシ際既ニ家資分散ヲ爲シ又ハ其際既ニ其
財産ヲ合シテ其義務ヲ盡スニ足ラザリシ証アル時
ハ此限ニ非ス

第千九十三條 義務者己レニ代リテ其義務ヲ行フ可
キ者ヲ指示シタルノミニテハ義務ノ更改スルコトナ
カル可シ

又權利者己レニ代リテ義務ヲ得可キ者ヲ指示シタ
ルノミニテハ義務ノ更改スルコトナカル可シ
第千九十四條 從來ノ義務ニ付テノ先取リノ特權又
ハ不動産書入質ノ權ハ新タナル義務ニ之ヲ移ス可

カラス但シ契約証書ニ之ニ反セシ旨ヲ記シタル時
ハ此限ニ非ス

第一千九十五條 從來ノ義務ニ付テノ先取リノ特權又

ハ不動産書入質ノ權ヲ新タナル義務ニ移ス可キ旨

ヲ特ニ約定シタル時ト雖モ其新タナル義務者ノ財

産ニ付キ既ニ先取リノ特權又ハ不動産書入質ノ權

ヲ得タル債主ノ權利ヲ害ス可カラズ

第一千九十六條 權利者ト連帶ノ義務者數人中ノ一人

トノ間ニ義務ノ更改シタル時ハ連帶シテ義務ヲ行

フ可キ其他ノ者其義務ヲ免ル可シ

權利者ト主タル義務者トノ間ニ義務ノ更改シタル

時ハ其保証人其義務ヲ免ル可シ

然レモ權利者第一項ノ場合ニ於テ其義務ヲ更改セ

ントスルニ付テハ連帶シテ義務ヲ行フ可キ數人ノ

皆其義務更改ノヲ承諾シテ猶以前ノ如ク連帶ノ

義務ヲ負フ可キ旨ヲ求メ又第二項ノ場合ニ於テ其

義務ヲ更改セントスルニ付テハ保証人ノ其義務更

改ノヲ承諾シテ猶以前ノ如ク其保証ノ義務ヲ負

フ可キ旨ヲ求メタル時其連帶シテ義務ヲ行フ可キ

數人又ハ保証人ノ其求メヲ承諾セサルニ於テハ其

義務ヲ更改スルコトヲ得ス

第三節 義務ヲ釋放スル事

第一千九十七條 義務ヲ約定シタル公私ノ契約証書ヲ

權利者ノ意ヲ以テ義務者ニ渡シタル時ハ其義務ヲ

釋放シタリト看做ス可シ但シ之ニ反シタル証アル

時ハ此限ニ非ス

第一千九十八條 權利者ヨリ連帶ノ義務者中ノ一人ニ

義務ヲ約定シタル契約証書ヲ渡シタル時ハ連帶シ

タル他ノ數人ノ爲メニモ亦其義務ヲ釋放シタリト

看做ス可シ

第一千九十九條 權利者連帶ノ義務者中一人ノ爲メ其

義務ヲ釋放スル契約ヲ爲シタル時ハ連帶シタル他

ノ數人モ亦其義務ノ釋放ヲ受ク可シ但シ權利者其

連帶ノ義務者中ノ一人ヲ釋放スト雖モ其他ノ者ヲ

釋放セサル旨ヲ別段定メタル時ハ此限ニ非ス此場

合ニ於テハ其權利者連帶ノ義務者中ニテ其釋放シ

タル一人ノ部分ヲ減シ其義務ヲ得ント求ム可シ

第一千百條 質トシテ取リタル物件ヲ還シタルト雖モ

其義務ヲ釋放シタルト思量スルコトヲ得ス

第一千百一條 權利者主タル義務者ノ爲メ其義務ヲ釋

放スル契約ヲ爲シタル時ハ其保証人モ亦其釋放ヲ受ク可シ

保証人ヲ釋放シタルト雖モ主タル義務者ヲ釋放シタリト爲ス可カラス

保証人中ノ一人ヲ釋放シタルト雖モ他ノ保証人ヲ釋放シタリト爲ス可カラス

第一千百二條 權利者其義務者ノ保証人ヨリ金額ヲ得テ其保証ノ義務ヲ釋放シタルト雖モ其得タル金額ハ其主タル義務ヲ償フニ充テ用ヒタルモノトセス

第四節 二箇ノ義務互ニ相殺スル事

第一千百三條 相互ニ義務ヲ行フ可キ者二人アル時ハ後ノ數條ニ記スル場合ト方法トニ因リ其二箇ノ義務ヲ互ニ相殺ス可シ

第一千百四條 互ニ義務ヲ行フ可キ双方ノ者ノ共ニ知ルナシト雖モ法律ノ力ニ因リ其二箇ノ義務ヲ互ニ相殺ス可シ但シ此場合ニ於テハ其二箇ノ義務ノ相對シタル時ニ於テ其高ノ相當ルニ至ル迄互ニ之ヲ相殺ス可シ

第一千百五條 二箇ノ義務互ニ相殺スルコトハ金額又ハ同種類ノ消費品ヲ目的ト爲ス二箇ノ義務ノ間ニ於

テ之ヲ爲スコトヲ得可シ但シ之カ爲メニハ其金額又
ハ消費品ノ高確定シ且其渡シ期限ニ至リシコトヲ必

要トス

消費品ノ價ノ定マリタル時ハ金額ト互ニ相殺スル
コトヲ得可シ

第一千百六條 裁判所ヨリ一方ノ者ニ義務ヲ行フ可キ
期限ノ猶豫ヲ許シタル時ト雖モ二箇ノ義務互ニ相
殺スルノ妨ケトナルコトナカル可シ

第一千百七條 二箇ノ義務ハ其生シタル原由ノ如何ヲ
問ハズ互ニ相殺スルコトヲ得可シ但シ左ノ三箇ノ場

合ハ此限ニ非ス

第一千百八條 一方ノ者己レニ屬シタル物ヲ横取セラ

レ他ノ一方ニ其物ノ取戻ヲ求ムル時

第一千百九條 一方ノ者他ノ一方ニ附托シタル物件又

ハ他ノ一方ニ貸與ヘシ耗盡セサル物件ノ取

戻ヲ求ムル時

第一千百十條 一方ノ者ヨリ他ノ一方ニ負債ノ爲メ差

押ユ可カラサル養料ヲ給與ス可キノ義務ア

ル時

第一千百八條 義務ノ保証人ハ義務者ト權利者トノ間

ニ二箇ノ義務互ニ相殺シタル旨ヲ申述シテ其保証
ノ義務ヲ免ル、コヲ得ヘシ

然レモ主タル義務者ハ權利者ヨリ保証人ニ對シテ
行フ可キ義務アル旨ヲ申述シテ已レノ義務ヲ免ル
、コヲ得ス

又連帶ノ義務者中ノ一人ハ權利者ヨリ他ノ連帶シ
タル者ニ對シ行フ可キ義務アル旨ヲ申述シテ已レ
ノ義務ヲ免ル、コヲ得ス

第一千百九條 義務者權利者ノ他人ニ其權利ヲ移セシ
コヲ承諾シタル旨ヲ公正ノ證書ニ記シ其公正ノ証

書ニ二箇ノ義務互ニ相殺ス可キ旨ヲ記載セサル時

ハ縱令其承諾ヲ爲サ、ル前ニ從來ノ權利者ニ對シ
二箇ノ義務ヲ互ニ相殺ス可キノ求メヲ爲シ得可キ

場合ト雖モ既ニ其承諾ノ後ニ至リテハ其權利ヲ買
受ケ又ハ讓受ケシ者ニ對シ二箇ノ義務ヲ互ニ相殺
ス可キノ求メヲ爲スコヲ得ス

又權利者他人ニ其權利ヲ移シ義務者ノ之ヲ承諾ス
ル旨ノ證書ヲ記スルコトナク唯其權利ヲ移セシ由
報告ヲ得タル時ハ義務者其權利ヲ買受ケ又ハ讓
受ケシ者ニ對シ其義務ト其報告ノ前ニ得タル權利

トヲ互ニ相殺ス可キノ求メヲ爲スコトヲ得可レ
第千百十條 二箇ノ義務ヲ互ニ相異ナリシ場所ニ於
テ尺クヌ可キ時ハ一方ノ者運送ノ費用ヲ他ノ一方
ニ計算シタル上ニ非カレハ二箇ノ義務ヲ互ニ相殺
ス可キノ求メヲ爲スコトヲ得ス

第千百十一條 一人ニテ負フタル數箇ノ義務ヲ他人
ヨリ得可キ一箇ノ義務ト互ニ相殺ス可キ時其數箇
ノ義務中何レノモノト相殺ス可キヤヲ定ムルニ付
テハ第千七十八條ノ法則ニ循フ可シ
第千百十二條 二箇ノ義務ヲ互ニ相殺スルニ因リ他

人ノ權利ヲ害スルコトナカル可シ故ニ義務者タル甲
者權利者タル乙者ニ金額又ハ物件ヲ渡スノ差留ヲ
丙者ヨリ受ケシ後ニ乙者ヨリ義務ヲ得可キノ權利
ヲ得タルニ於テハ其二箇ノ義務ヲ互ニ相殺シテ丙
者ノ權利ヲ害ス可カラス
第千百十三條 甲者乙者ニ對シテ行フ可キ義務ヲ乙
者ヨリ得可キ義務ト相殺ス可キニ之ヲ相殺スルコ
トヲ乙者ニ對シ自己ノ義務ヲ盡シタル時ハ甲者乙
者ヨリ之ヲ取戻スコトヲ得可シト雖モ以前ノ權利ニ
附加シタル先取りノ特權又ハ不動産書入質ノ權ハ

消除シタルモノト爲ス可シ但シ甲者己レノ義務ヲ
相殺ス可キ權利アルコトヲ知ラサルノ証アル時ハ此
限ニ非ス

第五節

權利ト義務ト混同スル事

第千百十四條 一人ニテ權利者タルノ分限ト義務者
タルノ分限トヲ兼テ併スル時ハ其權利ト義務ト混
同シテ消滅ス可シ

第千百十五條

主タル義務者ノ權利者タル分限ヲ兼

テ併セ又ハ權利者ノ主タル義務者タル分限ヲ兼テ
併スル時ハ保証人己レノ義務ヲ免ルコトヲ得可シ

保証人ノ權利者タル分限ヲ兼テ併セ又ハ權利者ノ
保証人タル分限ヲ兼テ併セタル時ハ主タル義務ノ
消滅スルコトナシ

連帶ノ義務者中ノ一人權利者タル分限ヲ兼テ併セ
又ハ權利者連帶ノ義務者中一人タル分限ヲ兼テ併
セタル時ハ連帶シテ義務ヲ行フ可キ他ノ數人其一
人ノ管ヲ擔任セシ義務ノ部分ノミヲ免ルコトヲ得
可シ

第六節

義務ノ目的タル物件ノ滅尽スル事

第千百十六條 義務ノ目的タル特定セシ物件ノ滅盡

シ又ハ之ヲ賣買ス可カラサルニ至リ又ハ其物件ヲ失フテ其存在スルヤ否ヲ知ルヲ能ハサルニ至リシ時其義務者ニ過失ナク且其義務者ニ義務ヲ行フヲ怠リタルノ責ナキニ於テハ其義務消滅ス可シ又義務者ニ其義務ヲ行フヲ怠リタルノ責アル時ト雖モ其義務ノ目的タル物件ノ抗拒ス可カラサル力ニ因リ滅盡シ且義務者縱令既ニ權利者ニ其物件ヲ引渡シタルモ亦其抗拒ス可カラサル力ニ因リ滅盡シタル可キノ証ヲ立ツルニ於テハ其義務消滅ス可シ但シ義務者抗拒ス可カラサル力ニ因リ其物件ノ

滅盡シタル時ト雖モ自カラ其責ニ任ス可キ旨ヲ特ニ約定セシ場合ハ此限ニ非ス
 竊取又ハ横奪シタル物件ハ其滅盡シ又ハ見失ヒタル方法ノ如何ヲ問ハス之ヲ竊取シ又ハ横奪セシ者必ス其價額ヲ償フ可キノ責アリトス
 第一千百十七條 義務ノ目的タル物件ノ滅盡シテ若シ其殘餘ノ物アル時ハ義務者其殘餘ノ物ヲ權利者ニ渡ス可シ

第七節 契約ヲ取消ス事

第一千百十八條 別段ノ法律ニ因リ契約ヲ取消ス可キ

訟求ヲ爲スノ期限ヲ特ニ定メタル場合ノ外ハ十年
 内ニ其訟求ヲ爲ス可シ
 強迫ニ因リ契約ヲ爲シタル時ハ其強迫ノ止ミタル
 日ヨリ其十年ノ期限ヲ算ヘ又錯誤及ヒ詐欺ニ因リ
 契約ヲ爲シタル時ハ其錯誤及ヒ詐欺ヲ發見シタル
 日ヨリ其期限ヲ算フ可シ
 又婦タル者其夫或ハ裁判所ノ許ヲ得スシテ契約ヲ
 爲シタル時ハ其婚姻ノ解ケシ時ヨリ其期限ヲ算ヘ
 又治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ契約ヲ爲シタル時ハ其禁
 ヲ免レタル日ヨリ其期限ヲ算ヘ又幼者ノ契約ヲ爲

シタル時ハ其丁年ニ至リシ日ヨリ其期限ヲ算フヘ
 シ
 第千百十九條 後見人ノ法律上ニ於テ幼者ヲ保護ス
 ル爲メ規定セシ法則ヲ循奉セスシテ契約ヲ爲シタ
 ル時ハ幼者其丁年ニ至リシ日ヨリ十年内ニ其契約
 ヲ取消サント訟求スルヲ得可シ
 第千百二十條 幼者ノ取消サント訟求スルヲ得可
 キ契約ヲ其丁年ニ至リシ後ニ更ニ確定シタル時ハ
 之ヲ取消サント訟求スルヲ得ス
 第千百二十一條 幼者ノ契約ヲ爲ス時其丁年ニ至リ

シ旨ヲ申述シタルノミニテハ其契約ヲ取消スル妨
カトナルコトナカル可シ但シ幼者ニ詐欺アル時ハ此
限ニ非ス

第一千二百二十二條 商業又ハ工業ヲ爲ス幼者ハ其職業
シタル爲シタル契約ヲ取消スコトヲ得ス

第一千二百二十三條 幼者其婚姻ヲ適法ノモノト爲スニ
其許諾ヲ得ルヲ必要トスル者ノ許諾ト立會トヲ以
テ婚姻ノ契約ヲ爲シタル時ハ其契約ヲ取消スコトヲ
得ス

第一千二百二十四條 幼者ノ故意ヲ以テ人ニ損害ヲ加ヘ

又ハ故意ニ非スシテ人ニ損害ヲ加ヘタル時其損害
ヲ償フ可キノ義務ハ之ヲ取消スコトヲ得ス

第一千二百二十五條 幼者及ヒ治産ノ禁ヲ受ケシ者又ハ

結婚シタル婦ノ管テ其爲シタル契約ヲ取消ス可キ
ノ允許ヲ得タル時ハ其契約ヲ爲セシ一方ノ者ヨリ
此等ノ者ニ對シ其幼年ノ時間、治産ノ禁ヲ受ケタル
時間、結婚ノ時間其契約ニ因リ既ニ渡シタル物件ヲ
取戻ス可キノ訟求ヲ爲スコトヲ得ス但シ其契約ヲ爲
セシ一方ノ者ヨリ幼者及ヒ治産ノ禁ヲ受ケシ者又
ハ婚結セシ婦ニ渡シタル物件ノ此等ノ者ノ利益ト

ナリタルノ証ヲ立ツル時ハ此限ニ非ス

第六章 義務ノ証及ヒ義務ノ消滅シタルノ証

第一千二百二十六條 凡ソ義務ノ執行ヲ得ント、求ムル者

ハ之ヲ証ス可シ

又既ニ義務ヲ免レタリト申述スル者ハ其義務ヲ消

滅シタルヲ証ス可シ

第一千二百二十七條 証據ノ種類ハ之ヲ分チテ四箇トス

一 曰ク証書、証人、思量、自白是ナリ

第一節 證書

第一款 公正ノ證書

第一千二百二十八條 公正ノ證書トハ各地方ニ於テ證書

ヲ記ス可キ權アル役員ノ必要ナル法式ニ循ヒ記シ

タル證書ヲ云フ

第一千二百二十九條 公正ノ證書ヲ記シタル役員ノ之ヲ

記ス可キノ權ナク又ハ其役員ノ之ヲ記ス可カラサ

ルニ因リ又ハ其法式ニ背キタルニ因リ其證書ヲ公

正ノモノト爲ス可カラサル時其契約ヲ爲シタル本

人ノ自署押印シタルニ於テハ私ノ證書ノ功アリト

ス

第一千三十條 公正ノ證書ハ何人ニ對スルト雖モ之

ヲ確証ナリトス
公正ノ証書ニ執行ノ例文ヲ記載シタル時ハ別段裁
判所ニ訟ヲ爲サスシテ之ヲ執行スルコトヲ得可シ

第一千三百一十一條 公正ノ証書又ハ私ノ証書ニ直接ニ
其証書ノ趣意ニ關係ナキ事件ヲ附記シアル時ハ其
附記シタル所ヲ以テ證據ノ端緒ノミト爲スコトヲ得
可シ

第三款 私ノ証書

第一千三百三十二條 私ノ証書ヲ示サレタル者ノ其真正
ナルヲ明認又ハ默認シタル時又ハ裁判上ニテ真正

ナリト認メラレタル時ハ之ヲ公正ノ証書ニ等シキ
確証ナリトス但シ其日附ノ事ニ付テハ第一千三百三十
六條ノ法則ニ循フ可シ

第一千三百三十三條 私ノ証書ヲ示サレタル者ハ其証書
ノ手記又ハ其自署押印ヲ認ムル歟又ハ認メサル歟
ヲ申述ス可シ
其財産相續人又ハ代權人ハ本人ノ手記又ハ自署押
印ヲ知ラサル旨ヲ申述スルコトヲ得可シ

第一千三百三十四條 私ノ証書ヲ示サレタル者其書ノ手
記又ハ其自署押印ヲ認メスト述ヘ又ハ其財産相續

人及ヒ代權人其本人ノ手記又ハ其自署押印ヲ知ラ
スト述フル時ハ裁判所ニテ其證書ノ驗真ヲ爲ス可
キ旨ヲ言渡ス可シ

第千百三十五條 双務ノ契約證書ハ各自ノ權利ヲ有
スル者ノ數ニ准シ其證書數通ヲ記ス可シ但シ同一
ノ權利ヲ有シタル數人ニ付テハ一通ノ證書ヲ以テ
足レリトス

證書各通ニハ之ヲ幾通ニ記シタルヤヲ附記ス可シ
第千百三十六條 私ノ證書ハ其證書ニ自署押印シタ
ル者ノ死去シタル日又ハ公正ノ證書中ニ私ノ證書

ノ趣意ヲ證明シタル日付以テ第三ノ人ニ對スル其
證書ノ日附ト定ム可シ

第千百三十七條 商人ノ簿冊ハ商人ニ非サル者ニ對
シ其簿冊ニ記シタル物品供給ノ証ト爲スヲ得ス
第千百三十八條 商人ノ簿冊ニ記スル所ハ其商人ノ

損失トナル可キ証ト爲スヲ得可シ但シ其簿冊ニ
因リ利益ヲ得ントスル者ハ其簿冊ニ記シタル諸件
中ニテ已レノ損失トナル可キモノハ之ヲ除キ已レ
ノ利益トナル可キモノ、ミノ証ト爲スヲ得ス

第千百三十九條 通帳ハ平常之ヲ用ヒテ物品ヲ供給

スル者及ヒ之ヲ買取ル者ノ間ニ於テハ証ト爲ス
ヲ得可シ

第千四百十條 商人ニ非サル者ノ家内ニ藏スル簿册

又ハ書類ニ記スル所ハ之ヲ記シタル者ノ利益トナ

ル可キ証ト爲スヲ得ス左ノ二個ノ場合ニ於テハ

其者ノ損失トナル可キ証ト爲スヲ得可シ

第一 其簿册及ヒ書類ニ既ニ人ヨリ物件又ハ

金額ヲ受取リシコトヲ記載シタル時

第二 其簿册又ハ書類ヲ記シタル者自己ノ負

ツタル義務ノ証書以テ補フ可キ爲メ之ヲ

記シタル旨ヲ別段附記シタル時

第千四百十一條 権利者其常ニ保有スル証書ノ末尾

又ハ其上部又ハ紙裏ニ義務者ノ義務ヲ免レシメタ

ルコトヲ知り得可キ文詞ヲ自カラ附記シタル時ハ權

利者其附記シタル所ニ自署押印ヲ爲サヌ又ハ其日

附ヲ記セスト雖モ義務者ノ其義務ヲ免レタルノ証

ト爲スコトヲ得可シ

第三款 公正ノ証書ノ寫

第千四百十二條 公正ノ証書ノ正本ノ現存スル時ハ

其寫ニ記スル諸件中心ニテ正本ト相合スル所ノミヲ

証ト爲ス可シ但シ其証書ノ寫ヲ示サレタル者ハ其
正本ヲ檢視セント求ムルヲ得可シ

第千百四十三條 公正ノ証書ノ正本既ニ現存セサル
時ハ其寫ヲ以テ証ト爲スニ付キ左ノ法則ニ循フ可
シ

第一 正本ノ第一ノ寫ハ其正本ニ等シク証ト
爲ス可シ

其他ノ正本ノ寫ト雖モ契約ヲ爲シタル双方
ノ者ノ承諾ノ上其面前ニテ公証人之ヲ記シ
タル時及ヒ双方ノ者ノ面前又ハ一方ノ者ヲ

呼出シテ猶出席セサル上ニテ裁判官ノ允許
ニ因リ公証人ノ記シタル時ハ亦正本ニ等シ
ク之ヲ証ト爲ス可シ

第二 公証人ヨリ正本ノ第一ノ寫ヲ渡シタル
後ニ其公証人又ハ之ニ代リ任ヲ得タル公証
人又ハ其正本ヲ預ル可キ職務アル役員ノ其
正本ヨリ記シタル寫ハ其三十年以外ノモノ
タル時ハ其正本ニ等シキ証ト爲ス可シ但シ
之ヲ爲メニハ別段双方ノ者ノ承諾又ハ裁判
官ノ允許アルヲ必要トセス

若シ其寫ヲ記シタルヨリ三十年以内ノモノ
タル時ハ之ヲ證據ノ端緒ノミト爲ス可シ

第三 前項ニ記載シタル者ニ非サル役員ノ記

セシ正本ノ寫ハ其如何ニ舊キヲ問ハス之ヲ

證據ノ端緒ノミト爲ス可シ

第四 寫ノ寫ハ其時ノ景狀ニ從ヒ參考ソ爲メ

之ヲ用フルコトヲ得可シ

第四款ニ義務ヲ認ムル証書及ヒ義務ヲ確的

ニ爲ス証書

第一千百四十四條 義務ヲ認ムル証書アリト雖モ其義

務ノ証書ヲ出サハルヲ得ス但シ義務ヲ認ムル証書

ニ其義務ノ証書ノ文詞ヲ特ニ記入シタル時ハ此限

ニ非ス

義務ヲ認ムル証書中ニ其義務ノ証書ニ記セサル義

務ヲ記シタルト雖モ其義務ノ効ナカル可シ但シ双

方ノ者以前ノ義務ヲ更改スルノ意アルノ証アル時

ハ此限ニ非ス

第一千百四十五條 法律上ニテ取消ノ訟求ヲ爲シ得可

キ義務ヲ確的ニ爲スノ証書ハ其義務ノ要領及ヒ之

ヲ取消ス可キノ權利ヲ生セシメタル理由ト其權利

ヲ拋棄ス可キノ意トヲ記シタルニ非サレハ其効ナ
 カル可レ
 義務ヲ確的ニ爲スノ証書ナシト雖モ其契約ヲ取消
 シ得可キ權アル者ノ第千百十八條ニ記スル期限内
 ニ其取消ヲ得ント認求セス又ハ其者ノ隨意ニテ其
 義務ヲ行フタル時ハ其義務ヲ確的ニ爲シタルノ証
 書アリトス
 義務ヲ確的ニ爲シタル時ハ其義務ノ証書ヲ取消サ
 ント認求スルノ權ヲ拋棄シタルト看做ス可シ但シ
 之カ爲メ第三ノ人ノ權利ヲ害スルコトナカル可シ

第千百四十六條 生存中贈遺ノ証書ノ法式ニ背キタ
 ルニ因リ其効ナキ時ハ後ニ之ヲ確的ニ爲ス可キノ
 証書ヲ記スルト雖モ其効ヲ生セシムルコトヲ得ス

第二節 証人

第千百四十七條 凡ソ十圓ニ過キタル事物ニ付テハ
 証人ヲ以テ証ヲ立ツルコトヲ許サス又十圓ニ過キサ
 ル事物ニ關シタル時ト雖モ其証書アルニ於テハ之
 ニ記セシ所ニ反シタル事又ハ之ニ記セシ所ヨリ更
 ニ餘分ノ事ハ証人ヲ以テ証ヲ立ツルコトヲ許サス但
 シ此法則ト商法ニ定ムル所ノ法則ト相觸ル、コトナ

カル可シ

第一千四百四十八條 元金ト其利息トヲ得ント認求スル時其元金ト利息トヲ合シテ十圓ニ過クルニ於テハ亦前條ノ法則ヲ適用ス可シ

第一千四百四十九條 十圓ニ過キシ金高ヲ得ント認求シタル者ハ後ニ其認求スル所ノ金高ヲ減スルト雖モ証人ヲ以テ証ヲ立ツルヲ許サス

第一千百五十條 十圓ニ過キサル金高ヲ得ント認求シタル時ト雖モ其金高ハ証書ノ備ハラサル十圓以上ノ金高ノ殘額又ハ其一部分タルニ於テハ証人ヲ以

テ証ヲ立ツルヲ許サス

第一千百五十一條 証書ノアラサル數箇ノ金高ヲ得ント認求シタル時其數箇ノ金高ヲ合シテ十圓ニ過クルニ於テハ縱令其數箇ノ金高ヲ得ント求ムル權利ノ各相異ナリタル理由ニ出テ且其權利ノ生シタル時期ノ互ニ異ナリタル旨ヲ申述スルト雖モ証人ヲ以テ証ヲ立ツルヲ許サス但シ其數箇ノ金高ヲ得ント認求スル權利ノ互ニ相異ナリシ人ヨリ生シタル時ハ此限ニ非ス

第一千百五十二條 証書ノアラサル數箇ノ權利ヲ一人

ニ對シテ得可キ者ハ其權利ヲ生セシメタル原由ノ如何ナルヲ問ハス其數箇ノ權利ヲ相合シテ得ント認求ス可ク其後ニ至リテハ證書ノアラサル其他ノ權利ヲ得ント認フルト雖モ裁判所ニ於テ之ヲ受理セス

第一千百五十三條 證據ノ端緒アル時ハ前數條ニ記シタル法則ト異ナリトス
訟護者ノ記シタル書面又ハ其訟護者ニ財産ヲ遺留シタル者ノ記シタル書面アリテ認求者ノ認フル所ニ憑據アル可シト思量スルヲ得可キ時ハ證據ノ端

緒アリトス

第一千百五十四條 權利者其權利ノ證書ヲ得ルコ能ハ

サルノ情實アル時ハ亦前數條ニ記スル所ノ法則ト異ナリトス但シ此例外法ハ左ノ場合ニ適用ス可シ

第一 准契約ヨリ生シタル義務及ヒ故意ヲ以テ人ニ損害ヲ加ヘタル所爲又ハ故意ニ非スシテ人ニ損害ヲ加ヘタル所爲ヨリ生セシ義務アル時

第二 火災、崩潰、騷亂、破船等ノ場合ニ於テ已ムヲ得ス人ニ物ヲ附託シタル時又ハ旅店ニ泊

シタル旅客ノ其物件ヲ附託シタル時又ハ此等ノ場合ニ於テ其他ノ義務ヲ生シタル時但シ此場合ニ於テハ裁判官其訟求者ノ景狀ト其時ノ模様ニ因リ証人ヲ以テ証ヲ立ツルコトヲ許ス可キヤ否ヲ定ム可シ

第三 權利者抗拒ス可カラサル意外ノ事故ニ

因リ其証書ヲ失フタル時

第三節 思量ノ事

第一千百五十五條 思量トハ法律上ニ定ムル所ニ因リ又ハ裁判官ノ考フル所ニ因リ知レタル事ヨリ知レ

サル事ニ推及スル效果ヲ云フ

第一款 法律上ニ定メタル思量ノ事

第一千百五十六條 法律上ニ定メタル思量トハ法律ノ

規定ニ因リ或種ノ證書又ハ或種ノ事柄ニ付キ爲ス可キ所ノ思量ヲ云フ但シ其証書及ヒ事柄ハ左ニ記スル類ノモノトス

第一 証書ノ性質ニ因リ法律ノ規定ニ背キタ

ルコトヲ思量シ其效ナキ旨ヲ法律上ニ定ムル

証書

第二 特定ノ景狀アルニ因リ物件ノ所有權ヲ

ルヲ又ハ義務ノ免除ヲ得タルコトヲ法律上ニ定ムル場合

第三 變更不可効ラサル裁判ノ効力ニ及ハス
第四 自白ノ効力

第一千百五十七條 一方ノ者變更ス可カラサル裁判ノ効力ヲ申述シ得ルニハ他ノ一方ノ者ノ訟求スル所ノ事物ハ既ニ裁判ヲ受ケタル事物、其訟求ヲ爲ス原由モ亦以前ノ原由、其訟求者及ヒ訟護者モ以前ノ人ニシテ且其分限モ亦以前ニ同シキヲ必要トス

第一千百五十八條 法律上ノ思量ノ爲メ利益ヲ受ク可

キ者ハ別段其証ヲ立ルニ及ハス
法律上ノ思量ト雖モ之ニ反シタル証ヲ立ルコトヲ得可シ然レモ法律上ノ思量ニ因リ証書ノ効ナキ事又ハ訟求ヲ爲スノ權ナキ事ヲ法律上ニ定メタル時ハ其思量ニ反シタル証ヲ立ルコトヲ許サス

第二款 法律上ニ定メサル思量ノ事

第一千百五十九條 法律上ニ定メサル思量トハ裁判官ノ知識ト思慮トニ因リ爲ス所ノ思量ヲ云フ但シ裁判官ハ事實ノ憑據アリテ詳明符合シタル思量ニ非サレハ之ヲ爲ス可カラズ又証人ヲ以テ証ヲ立ルコト

ヲ法律上ニ許シタル場合ニ非サレハ其思量ヲ爲ス
可カラス

第四節 自白

第千百六十條 自白ハ之ヲ分ツテ二種トス一ハ裁判
外ノ自白又一ハ裁判上ノ自白是ナリ

第千百六十一條 一方ノ者言詞ノミヲ以テ裁判外ノ
自白ヲ爲シタルトテ相手方ヨリ申述スルト雖モ証
人ヲ以テ証ヲ立ルトテ許サ、ル場合ニ於テハ其効
ナカル可シ

第千百六十二條 裁判上ノ自白トハ一方本人又ハ其

本人ヨリ特ニ任シタル名代人ノ裁判所ニ於テ申述
シタル所ヲ云フ

其自白ハ之ヲ爲シタル者ニ對抗スルヲ得可キ証ナ
リトス

自白ヲ爲シタル者ハ事實ノ錯誤ニ因リ之ヲ爲シタ
ルノ証ヲ立ツルニ非サレハ之ヲ取消スルヲ得ス法
律上ノ錯誤ハ自白ヲ取消スノ原由ト爲ス可カラス

第千六百六十三條 契約ナクシテ生スル義務ハ法律ノ
力ノミニ因テ生シ又ハ一方ノ者ノ所爲ニ因テ生ス
法律ノ力ノミニ因テ生スル義務トハ例ヘハ相隣シ
タル土地ノ所有者ノ間ノ義務又ハ後見人或ハ管財
人等總テ已レノ任セラレタル職務ヲ行ハサルヲ得
サル者ノ義務ノ如ク人ノ意ニ因ラスシテ生スル義
務ヲ云フ

第四卷 契約ナクシテ生スル義務

第千六百六十三條 契約ナクシテ生スル義務ハ法律ノ

力ノミニ因テ生シ又ハ一方ノ者ノ所爲ニ因テ生ス
法律ノ力ノミニ因テ生スル義務トハ例ヘハ相隣シ
タル土地ノ所有者ノ間ノ義務又ハ後見人或ハ管財
人等總テ已レノ任セラレタル職務ヲ行ハサルヲ得
サル者ノ義務ノ如ク人ノ意ニ因ラスシテ生スル義
務ヲ云フ

一方ノ者ノ所爲ニ因テ生スル義務トハ准契約、犯罪、
准犯罪ヨリ生スル義務ヲ云フ但シ此類ノ義務ハ此

卷ニ之ヲ記載ス

第一章 准契約ヨリ生スル義務

第千百六十四條 准契約トハ人ノ隨意ニテ行フタル所爲ニ因リ他人ニ對シテ義務ヲ生シ又時アリテハ其所爲ニ因リ双方ノ者ノ爲メ相互ノ義務ヲ生セシムルヲ云フ

第千百六十五條 人自己ノ隨意ヲ以テ他人ノ事務ヲ管理スル時ハ他人ノ其管理ノ事ヲ知ルト知ラサルトヲ問ハス其管理ヲ爲ス者其爲シ始メタル管理ヲ繼續シテ爲シ且他人ノ自カラ其事務ヲ管理スルヲ

得可キ時ニ至ル迄其管理ヲ成就スルノ手續ヲ爲ス可キ默認ノ義務ヲ負フタルモノトス又其管理ヲ爲ス者ハ其管理スル事務ニ附帶セシ諸件ヲモ亦共ニ引受ケサルヲ得ス

其管理ヲ爲ス者ハ其本人ヨリ別段名代委任ノ証書ヲ受ケタル時ニ等シキ諸般ノ義務ヲ負フ可シ

第千百六十六條 若シ管理ノ事務ノ未タ終成セサル前ニ其本人ノ死去スルトアリト雖モ其管理ヲ爲ス者ハ其死者ノ財産相續人ノ管理ヲ爲シ得可キニ至ル迄ノ間其管理ヲ繼續シテ行ハサルヲ得ス

第一千六百十七條 他人ノ事務ヲ管理スル者ハ之ヲ爲
スニ付キ極メテ丁寧懇切ニ注意スルヲ要トシ細小
ノ過失ト雖モ其責ニ任セサルヲ得ス

然レハ其事務ノ管理ヲ爲シ始メタル時ノ情實ニ因
リ裁判官管理ヲ爲ス者ノ過失又ハ懈怠ノ償ヲ輕減
スルヲ得可シ

第一千六百十八條 他人ノ事務ヲ管理スル者ノ其管理
ノ宜シキヲ得タル時ハ其者ノ本人ノ名前ニテ人ト
契約シタル義務ハ本人ヨリ之ヲ盡クヌ可ク又其管
理ヲ爲シタル者其管理ノ爲メ己レニ擔任シテ盡ク

シタル義務ハ本人ヨリ之ヲ其者ニ償ヒ且其者ハ爲
シタル有益ノ費用又ハ己ムヲ得サル費用モ亦本人
ヨリ之ヲ其者ニ償フ可シ

第一千百六十九條 錯誤ニ因リ又ハ故意ヲ以テ已レノ
得可カラサル物件ヲ受取リタル者ハ之ヲ其渡シタ
ル者ニ還ス可キノ義務アリト

第一千七百十條 錯誤ニ因テ自カラ義務ヲ負フタリト
思フ者ハ其義務ヲ盡クシタル時ハ其義務ヲ得タル
者ニ對シ取戻シヲ請求スルノ權アリ
然レハ誤テ其義務ヲ得タル者ハ之ヲ得タルニ因リ

其証書ヲ存セザル時ハ其義務ヲ行フタル者其義務ヲ得タル者ニ對シ取戻シヲ請求スルノ權ナク唯當然其義務ヲ負フタル者ニ對シテ償還ヲ得シト請求スルコトヲ得可シ

第一千七百七十一條 若シ前二條ノ場合ニ於テ義務ヲ得タル者ノ不正實行時ハ其得タル義務ハ元高ト其義務ヲ得タル日ヨリ以來ノ利息或ハ入額ヲ還サ

第一千七百七十二條 不動産又ハ動産ヲ受取ル可キ權利アラザル者ノ若シ之ヲ受取リタル時ハ其不動産又

ハ動産ノ現存スルニ於テハ其品物ノ儘之ヲ還ス可ク又其者ノ過失ニ因テ其不動産又ハ動産ヲ損壞滅盡セシメタルニ於テハ其實價ヲ償還ス可シ

若シ之ヲ受取リタル者ノ不正實行時ハ縱令抗拒ス可カラザル意外ノ事故ニ因リ其物件ノ滅盡シタル時ト雖モ其者其實價ヲ償還ス可キノ責ヲ免ル

第一千七百七十三條 不正實行ノ意ニ非ス誤テ物件ヲ收受セシ者ノ其物件ヲ賣リタル時ハ其賣拂代金ノミヲ還ス可シ

第一千七百七十四條 自己ノ所有物ノ返還ヲ得タル者ハ
縱令不正實ニ其物件ヲ所得ト爲シタル者ニ對スル
モ其者ノ其物件ヲ保全ス可キ爲メ爲シタル已ムヲ
得サル費用及ヒ有益ノ費用ヲ償還セサルヲ得ス

第二章 犯罪及ヒ准犯罪ヨリ生スル義務

第一千七百七十五條 何事ニ因ラス自己ノ過失ニ因リ人
ニ損害ヲ加フル所爲ヲ行フタル者ハ其損害ヲ償フ
可キノ義務アリ

第一千七百七十六條 何人ニ限ラス自己ノ所爲ニ因リ人
ニ加ヘタル損害ヲ償フ可キノ義務アルゾミナラス

自己ノ懈怠又ハ疎忽ニ因リ人ニ加ヘタル損害モ亦
之ヲ償フ可キノ義務アリ

第一千七百七十七條 自己ノ所爲ニ因リ人ニ加ヘタル損
害ヲ償フ可キノ義務アルゾミナラス自己ノ引受ク
可キ者又ハ自己ニ管守スル者ノ所爲ニ因リ人ニ加
ヘタル損害モ亦之ヲ償フ可キノ義務アリ

故ニ父ノ生存中ハ父又父ノ死去シタル後ハ母ヨリ
其同居スル幼年ノ子人ニ加ヘタル損害ヲ償フ可
シ

家長及ヒ人ヲ使用スル者ハ其僕婢及ヒ使用ヲ受ク

ル者ノ其任セラレタル事務ヲ行ハニ當リ人ニ加ヘタル損害ヲ償フ可シ

授業師及ヒ工作者ハ其受業者及ヒ工作ヲ學ブ者ノ己レノ管照ヲ受ケル時間ニ人ニ加ヘタル損害ヲ償フ可シ

父母又ハ授業師及ヒ工作者ハ其子又ハ受業者ノ人ニ損害ヲ加ヘシ所爲ノ防制スル不能ハサルハ証ヲ立ツルニ非レハ此條ニ記スル所ノ責任ヲ免ル、ヲ得ス

第一千百七十八條 獸類ノ所有者又ハ獸類ヲ用ズル者

ハ其獸類ヲ管守シタルト其徘徊逃逸シタルトヲ問ハス其獸類ノ人ニ加ヘタル損害ヲ償フ可シ

第一千百七十九條 家屋ノ所有者ハ之ヲ修理スルヲ怠リタルニ因リ又ハ之ヲ建築スル方法ノ不良ナルニ因リ其家屋ノ崩潰シテ人ニ加ヘタル損害ヲ償フ可シ

